

4. 各業務の分析・評価

本章では、運営事業者の公募時に県が提示した「要求水準」を基に、開業後5年間の愛知県国際展示場コンセッションによる各業務の実施状況について振り返りを行ったうえで、県による評価と課題の分析を行います。

【評価期間：開業から2024年8月末まで（一部事業はこの限りではない。）】

(1) 統括マネジメント業務**① 組織体制**

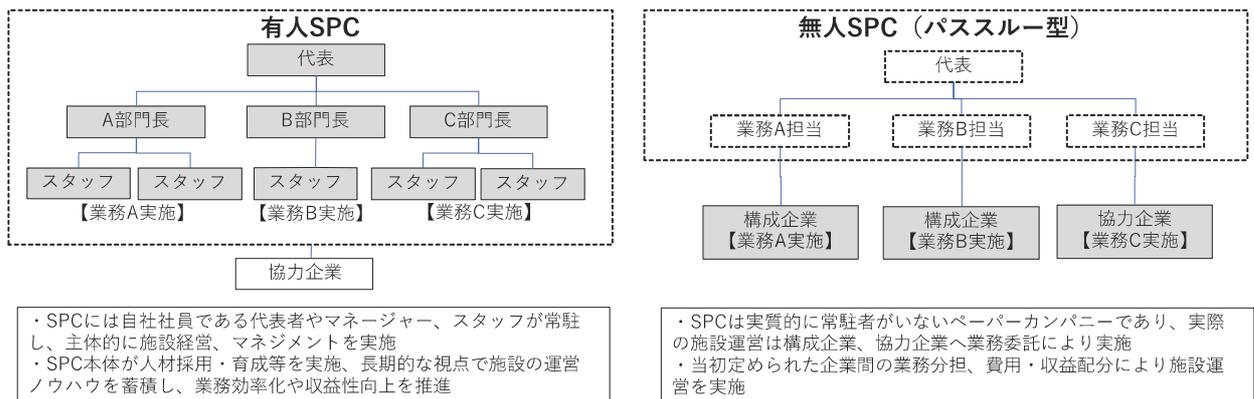
i) 要求水準

- ・本事業では、長期間にわたり質の高いサービスを効率的、効果的かつ安定的に提供し続けるとともに、国際展示場としての競争力を持続的に強化していくことが必要となる。
- ・そのために、運営権者が実施する施設維持管理運営業務、附帯事業運営業務、官民連携による需要創造推進業務について、実施契約の全期間にわたり各個別業務を総合的かつ包括的に統括して管理できる体制の構築を実現するため、統括マネジメント業務を実施する。

ii) 実施状況

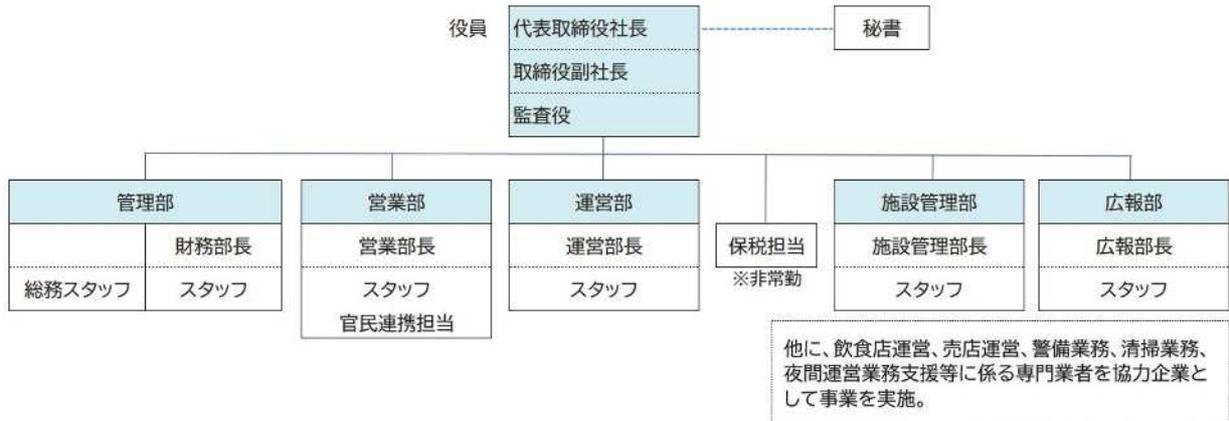
- ・コンセッション事業全体の実施にあたっては、「SPC自身が責任を持って経営を行い、価値を創造・提供する」ことを県として求め、AICECの組織は、一般的なPFI事業のようなパススルー型のSPCではなく、社長や各部門の部門長、スタッフをSPCが直接雇用し、施設に常駐する、いわゆる「有人SPC」として運営されています。

有人SPCと無人SPCとの比較



- ・有人SPCの形態とすることで、SPC自身が責任を持って人材の採用や育成等を行い、中長期的な視点で施設の運営ノウハウを蓄積・涵養し、価値あるサービスの提供や施設の競争力強化を図ることを意図しています。
- ・なお、施設や設備の点検、保守等を行う施設維持管理業務については、開業当初より専門的な技術やノウハウを包括的に導入する必要があることから、オープンブック方式のもと、公募プロポーザルによって専門事業者を公募・選定する形態を導入しています。
- ・また、委託先の専門事業者からは、AICECに対して専門人材の派遣が行われ、施設維持管理に係る専門的なノウハウをAICECへ移転する取組も行われてきました。
- ・こうした組織形態の導入により、SPCが責任を持って独自の経営戦略を立て、戦略的なマーケティング・プロモーションや催事の誘致・営業、各種附帯・任意事業の実施、効率的・効果的な施設維持管理を行うなど、自由度の高い管理運営を可能としています。
- ・具体的な組織体制としては、次の図のとおりとなっています。

AICECの組織体制(2025年3月時点)



- ・コロナの影響など厳しい運営状況の時期もありましたが、AICECでは、正規職員が中心となり、マーケティング・プロモーション、営業・誘致、催事開催支援、附帯事業・任意事業運営、経営管理等の各種業務の実績を積み重ね、人材育成と経営ノウハウの蓄積を図ってきました。
- ・一方で、15年という限られた事業期間であることや、トラックレコードがない新規事業であること、また、専門人材の減少や人手不足といった社会的な情勢も受け、AICECでは、人手不足の状態が続いています。そういった中でも、業務に支障を出さないよう、退職者が出た際は速やかに人員募集を行い配置する、人員の変化に対応できるような業務体制を構築するなどの対応を行っています。

iii) 評価と課題

- ・AICECでは、有人SPCとして、自社において催事運営等のノウハウを蓄積することで、展示会、国際会議、大規模なBtoCイベントなど様々な催事へ対応できる体制を整えており、これまで大きな問題を生じることなく施設運営がなされていることから、必要な体制を構築できていると評価できます。
- ・一方で、人材の採用、育成等はすべて自社の責任で実施する必要があり、中長期的な人材育成や体制構築、ノウハウの蓄積のためには、金銭的、労力的、時間的なコストが生じることから、AICECには、可能な限り職員の定着を図り、安定的な運営を行うことが求められています。
- ・この先、AICECは、年数の経過とともに損耗が進む施設の維持管理や、アジア競技大会や技能五輪国際大会といった大規模な国際催事の円滑な運営を行っていく必要があります。また、ポートメッセなごや新第1展示館やIGアリーナなどの周辺施設の整備や、サステナビリティへの関心の高まりといった外部環境の変化への対応も求められ、今後の人材不足が予想されることから、今まで以上に組織体制を強化し、施設管理や催事運営のノウハウを活用していくことが重要となっていきます。
- ・こうした環境の変化に対応しながら、サービス水準を維持・向上させ、今後10年間の運営を持続的に行うために、早急に必要十分な人員を確保・育成し、定着させることが求められます。

②総務・経理、セルフモニタリング業務

i) 要求水準

【総務・経理業務】

- ・予算作成、収入・経費の執行・管理および決算管理を行う。
- ・施設維持管理運営業務及び附帯事業運営業務と、官民連携による需要創造推進業務の間においては明確な会計区分を行う。
- ・事業年度毎に事業報告、附属明細書、監査報告、会計監査報告及びキャッシュフロー計算書を県に提出する。
- ・受領及び作成した文書等の整理・保存・管理を行う。なお、文書等の管理規則又は管理要領を定め、破損・紛失等のないよう適切に文書等の整理・保存・管理を行う。
- ・建築物及び設備、備品については、県と協議を行い、台帳を作成し、保管する。

【セルフモニタリング業務】

- ・年度毎の管理計画書及び業務計画書に対して、実際の達成状況や成果等について自己点検・評価するとともに、その結果を踏まえて、次年度以降の業務やサービスの改善に反映させる。
- ・実施業務が要求水準を充足していることを客観的に確認するセルフモニタリングの仕組みを導入する。
- ・セルフモニタリング結果については、年度管理報告書に取りまとめ、県に提出する。なお、要求水準未達のおそれがあると判断した場合、改善方策について検討して年度管理報告書に反映する。

ii) 実施状況

- ・AICECでは、管理部において、財務担当及び人事・総務担当を配置して、総務・経理及びセルフモニタリングの統括等の業務を実施しています。
- ・経理(財務)について、各年度の予算作成や執行管理、決算等の業務を確実に実施しており、各種会計書類、財務諸表等についても、毎年度適切に作成したうえで、愛知県への提出や公表を行っています。また、収支の状況として、2019年度の開業から2023年度まで、コロナの影響を受けながらも、黒字経営が継続できています。
- ・2024年度からは、代表企業であるGLイベントのサポートにより、同社が管理する世界各地のMICE施設のデータベースを元に、営業状況や収支状況等が比較・分析できるシステムを導入しており、収支構造の分析や数値予測等の経営支援ツールとしての利活用を測っています。
- ・文書管理や、研修を含む人事関連業務の管理、社内全体への情報共有や部門間の調整など、その他の総務業務についても適切に実施し、AICECによる円滑な業務実施を支えています。
- ・セルフモニタリングに係る業務としては、各事業のモニタリングを統括し、年度管理計画書を始めとした本施設の運営の全体管理に関する各種文書の作成や取りまとめ、各部門のレポート提出管理等を行っています。
- ・各事業のセルフモニタリングについては、各担当者により毎月業務の実施状況を振り返り、自己評価を行ったうえで県による確認を受けるという仕組みを導入しており、要求水準未達のおそれがある事項が発生した場合も、速やかに改善を図るよう努めています。
- ・また、月次でAICEC担当者と県担当者が出席する財務モニタリングを実施しており、各月の収支状況、財務状況の他、人材採用等の状況について共有を図っています。

iii) 評価と課題

- ・統括マネジメント業務として、管理部の財務担当及び人事・総務担当により、総務・経理業務やセルフモニタリングに関する業務が適切に実施されてきました。
- ・総務・経理業務について、毎年度適切な決算業務や監査報告、書類作成が実施されるとともに、県への提出やHP等での公表も確実に行われており、問題なく業務が遂行されています。特に、予算の執行・管理を行う中で、開業以来黒字経営を維持していることは、民間事業者による創意工夫が活かされている点として評価できます。また、その他の総務関連業務についても概ね滞りなく実施されており、AICECにおける県との窓口として機能しています。
- ・セルフモニタリング業務については、各業務を適切に統括し、毎月のセルフモニタリングを毎月遺漏なく実施のうえ、県に報告されているほか、毎年度末には、各年度の取組内容を踏まえた次年度の管理計画や業務計画が策定、提出されています。さらに、要求水準未達となるおそれがある指摘を行った場合にも、県の求めに応じて経緯や再発防止策について報告したうえで、速やかに改善が図られてきました。
- ・開業から年数が経過するにつれ、要求水準未達のおそれがある事項も減少し、昨今では大きな指摘事項等はありませんが、モニタリング報告等について軽微な不備等が見られるため、より一層の精度の向上が期待されます。

【コラム④ 愛知県の施策との連携】

本施設では、施設の設置目的に資するため、愛知県の施策と連携した多様な展示会や実証実験が行われています。本コラムでは、代表的な催事とデジタルアイランドプロジェクトとの連携について紹介します。

①県の施策による催事の開催

○技能五輪全国大会・全国アビリンピック

- ・全国の23歳以下の若者及び15歳以上の障害のある方々がものづくりに関する技能を競う大会で、電子機器の組立や縫製など、技能五輪では40種、アビリンピックでは20種あまりの種目が実施されます。
- ・本施設では、2019年に初開催され、その後も2023年から2026年までの連続開催が決まっているほか、2028年には技能五輪国際大会の開催も決定するなど、会場として定着しています。

○SMART MANUFACTURING SUMMIT BY GLOBAL INDUSTRIE(SMS)

- ・AICECの代表企業であるGLイベントが開催する、ヨーロッパ最大級の総合的な産業展示会「グローバル・インダストリー」の日本版で、GLイベントと県により締結した新たな産業展示会の立ち上げに関する覚書に基づき、県や地元の経済団体等との連携のもと、2024年3月に開催されました。
- ・ヨーロッパを始めとする海外企業やスタートアップも出展・参加し、ものづくりの先端技術や最新機器の展示等が行われました。

○AXIA EXPO

- ・株式会社日刊工業新聞社を中心とした実行委員会により、2024年度に初めて開催された、「カーボンニュートラル社会の実現」をテーマとする新しい展示会であり、2023年度にはプレイベントも開催されました。
- ・日本全体でスマートシティの実現に向けた産官学の動きが加速していることから、愛知県も実行委員会に参画し、スマートシティ関連施策と連携した企画や展示により、持続可能な社会の実現を目指しています。

○ツーリズムEXPOジャパン

- ・2014年から全国で開催されている、観光業界の展示商談会と消費者向けのPRを行う日本最大級の総合観光イベントで、2024年の東京での開催時には、4日間で約183,000人が来場しています。
- ・愛知県の誘致活動により、2025年に、本施設を会場として、中部北陸地域で初開催されることが決定しており、本催事を着実に成功させることで、日本全体の観光産業の発展と、地域経済の活性化が図られます。

②デジタルアイランドプロジェクトとの連携

- ・愛知県が行う「デジタルアイランドプロジェクト」は、本施設が立地する中部国際空港島及び周辺地域を、5G等デジタル技術を活用した革新的事業・サービスのオープンイノベーションフィールドに位置づけ、2030年に導入が見込まれる近未来の事業・サービスを、2025年度を目途に実装することを目指す事業です。
- ・本施設は、2019年の開業当初からNTTドコモの「5Gプレ商用エリア」に選定され、国内で初めて5G通信環境が整備された施設のひとつであり、先端技術を推進する本プロジェクト実証の場として適しています。
- ・本プロジェクトの一環として、中部国際空港島及び周辺地域でデジタル技術を活用した実証実験が行われており、本施設で開催される催事において、顔認証システムを活用した決済や入場管理、自動運転車両の試乗などが実施されています。

今後も、こうした催事の円滑な開催や、県や催事主催者との連携を通じて、「産業首都 愛知の新たな交流・イノベーション拠点」として、産業の高度化・活性化や新たなイノベーションの創造を図るとともに、様々な催事の開催や先端技術の導入により、周辺エリアの魅力向上・にぎわい創出に寄与していきます。

(2)施設維持管理運營業務**①マーケティング・プロモーション業務**

i) 要求水準

- ・愛知県国際展示場の積極的なPRや情報提供のため、マーケティング戦略に基づき、展示会主催者やイベントプロモーター向け、及び利用者向けのマーケティング・プロモーション(広報・宣伝)を行う。
- ・なお、官民連携による需要創造推進業務における、地域プロモーション事業との連携あるいは一体的な運用を図る。
- ・マーケティング・プロモーション業務の企画・実施等においては、本施設として統一的なブランディングのもとでのマーケティング・プロモーションを推進する。

ii) 実施状況

- ・AICECでは、広報部を設置し、ホームページやSNSにおける各種情報発信の推進、顧客向けのニュースレターの発行、国内及びアジアのMICE関連メディアへの積極的な出稿や、MICE関連の展示会への出展など、取組ごとに訴求するターゲットを明確にししながら、複数のチャンネルを利活用したマーケティング・プロモーションを推進しています。
- ・広告等の掲載時には、空港直結の立地も反映させたフレーズ「FLY to the NEW STAGE」をキーワードとしており、このキーワードのもと、常設保税展示や外部厨房、多目的利用地といった他施設にない設備をPRすることで、今までにない新しい催事を開催できる施設としてのブランディングを図っています。
- ・また、後述の、「官民連携による需要推進業務」の地域プロモーション事業における広告記事等の掲載時には、AICECの広報担当と官民の担当により相互に内容を確認し、マーケティング・プロモーション業務における広告と同一のコンセプトの下、一体的なプロモーションを行うよう努めています。
- ・2020年度、2021年度には、コロナの影響により催事業界全体の先行きが不透明となり、活発なマーケティング・プロモーション活動を行えなかったものの、2022年度からはポスト・コロナの催事を獲得するため積極的に活動を行い、ディスティネーションとしての情報発信や、会場の多様な利活用推進のためのレポート作成など、随時新しい試みも始めています。

年度ごとの主な取組

| 年度 | 主な取組内容 |
|------------|--|
| 2019 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・MICE専門誌への記事掲載(国内誌2件、国際誌2件)。 ・展示会主催者やプロモーター向けにニュースレターの発信を開始。 ・施設の詳細やアクセス、催事開催予定など、常に最新の情報を発信するため、WEBサイトやSNSを開設・運用、PR動画を作成。 ・MICE専門誌「Exhibition World」を発行するイギリスの出版社 Mash Media社やMICE専門見本市の「IBTM CHINA」のWEBサイトでのバナー広告を展開。 ・国内外の業界関係者が集うMICE見本市や世界最大の展示会産業団体であるUFI(国際見本市連盟)等への参加。 ・海外でのプロモーションとして、「IMEXフランクフルト」(世界最大のMICE見本市)、「UFIコンgresバンコク2019」、「中国国際輸入博覧会」(上海)、「IBTM World 2019」(MICE専門見本市・バルセロナ)に参加。 |

| | |
|--------|--|
| 2020年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・MICE専門誌への記事掲載(国内誌2件)。 ・初の自主開催催事「JAPAN×FRANCE LIFESTYLE EXPO2021- HYBRID EDITION-」(2021年4月)におけるフランスと日本のビジネスマッチングが可能となるよう、出展ブース紹介等のプレスリリースを8件発信。 |
| 2021年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・MICE専門誌への記事掲載(国内誌1件、国際誌1件)。 ・2020年度に引き続き、「JAPAN×FRANCE LIFESTYLE EXPO 2021- HYBRID EDITION-」に係るプレスリリースを10件発信。 |
| 2022年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・MICE専門誌への記事掲載(国内誌3件、国際誌13件)。特に、ポスト・コロナの海外主催者向けのPRを強化。 ・国内誌での主催者との対談企画。 |
| 2023年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・MICE専門誌への記事掲載(国内誌2件、国際誌8件)。 ・展示会やMICE等に関する情報を扱うWEBサイト「展示会とMICE」へオンライン記事の掲載。 ・愛知県の観光、経済などのニュースをまとめたAichi Newsの月に1回の発信を開始し、会場の情報のみならず、地域の情報も発信。 ・主催者へのアプローチとして、主要な催事の開催報告や割引制度の紹介、外部厨房の活用方法の提案などを行うニュースレターを開始し、3か月に1回のペースで配信。 |
| 2024年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・MICE専門誌への記事掲載(国内誌3件、国際誌1件)。 ・特に、「見本市展示会通信」9月号では、開業5周年の特集記事として、本施設を利用した催事主催者との対談記事や、主な催事主催者からの声を掲載。 ・展示会やMICE等に関する情報を扱うWEBサイト「展示会とMICE」へオンライン記事の掲載。 ・催事開催状況や施設の利用方法等について周知するため、特定の催事開催時に、HP及びSNSに「開催レポート」の掲載を開始。 ・県外への認知度向上を図るため、「イベント総合EXPO」(7月)、「Japan MICE EXPO」(10月)に出展。 |

月刊イベントマーケティング
2022年4月30日号



見本市展示会通信 2024年9月号



iii) 評価と課題

- ・施設が開業してからの5年間、コロナの流行等の影響を受けながらも、新規の施設として、催事主催者や施設利用者などをターゲットに、HPやSNSの運営、専門誌への記事掲載、展示会への出展など、統一したコンセプトのもと様々なPRや情報提供が実施され、こうしたプロモーション活動の成果もあり、催事の

誘致・開催実績が積み重ねられてきました。

- ・一方、催事主催者以外の一般利用者や、県外の催事主催者にとって、本施設の認知度は未だ高くはないとの声もあり、今後も一層の知名度向上に向けた取組を行うことが求められます。
- ・特に、アーティストに応じて幅広い来場者を見込むことができるコンサート等の開催時に、来場者向けの広告やサービスを充実させることで、一般利用者間における会場としての知名度・満足度向上につなげていくことも重要です。
- ・催事開催場所の選定にあたっては、会場としての知名度も条件のひとつとなることから、選ばれる施設となるよう、引き続き、全国の主催者に向けた戦略的なプロモーションを展開していくことが必要です。

②誘致・営業業務

i) 要求水準

- ・見本市・展示会はもとより、学会・総会等のコンベンション、音楽興行等のイベント等など、各種催事を積極的に誘致・営業する体制を整備し、施設の利用促進を図る。
- ・誘致・営業活動の展開にあたって、面積稼働率25%を目標とする。
- ・積極的な催事誘致のため、必要な人材の確保・育成と体制整備を行うとともに、外部ネットワークの形成等に努め、県や関係機関等との連携を密にする。
- ・誘致・営業のターゲットとなる催事イメージは、本県の産業集積・特性を活かし、当地域の産業振興・経済発展に資するもの。

ii) 実施状況

【営業誘致活動】

- ・営業誘致活動として、営業部において、マーケティングデータ等に基づき営業・誘致を展開するターゲットを定め、施設の利用方法に関する情報提供や提案活動等を展開してきました。
- ・営業活動にあたっては、BtoB展示会、BtoCイベント、試験、コンサートなど、催事の類型ごとに担当者を決めて誘致を行う体制をとっており、効率的な情報収集やネットワークの構築に努めています。
- ・また、誘致後も各営業担当者が引き続き個別に催事の担当となり、利用に係る質問事項や施設の利用状況の問合せに対応するなど、主催者との交流を重視しており、各催事のニーズにきめ細かく対応できる体制を整備することで、更なる施設の利用促進を図っています。
- ・さらに、AICECとして、名古屋商工会議所や中部経済連合会、常滑商工会議所等に加盟し、地元企業とのネットワークを強化することで、新規催事の誘致や展示会等開催時の主催者支援にも役立てているほか、2024年度には、「愛知・名古屋MICE推進協議会」の一員としてMICE商談会(「IT&CMA」(タイ)、「JNTOインセンティブ旅行商談会」(台湾))に出展するなど、県を始めとした外部ネットワークを催事誘致に活かしています。
- ・誘致活動を行う際には、たとえば、コロナの影響により大規模な会場での試験等開催の需要が拡大したことに対応して、資格試験、審査会等を中心とした営業展開を図り、多くの利用を得るなど、時々のマーケットの変化に的確に対応するよう努めています。
- ・近年では、愛知県とも連携して、食品、スマートシティ、農業、観光、食品機械等、愛知県の産業振興に資するテーマに係る展示会の誘致・営業等も積極的に推進しているほか、空港直結の国際展示場としての機能を発揮するため、フランス、韓国等、諸外国の関連機関との連携も図っています。

年度ごとの主な取組

| 年度 | 主な取組内容 |
|--------|--|
| 2019年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県や関係機関との連携を図り、空港直結という施設の特色や、愛知県の産業集積を活かし、地域の発展に資する催事として、自動車やロボット、食などをテーマとした展示会等をターゲットとして誘致活動を開始。 ・フランスで開催されているeスポーツイベント(レインボーシックス・シーズン プロリーグ ファイナル)の日本初開催など、フランス企業を代表企業とするAICECならではの催事を誘致。 |
| 2020年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても安全に催事が開催できるよう、屋内施設の換気や屋外多目的利用地の活用等を提案するとともに、密を避けるため従来よりも広いスペースを求める資格試験会場としての利用を拡大。 ・東京オリンピックが1年延期されたことによる首都圏の会場の代替地としての需要をとらえた新規催事を誘致。特に、展示会の手主催者であるRX Japan 株式会社主催の「名古屋ものづくりワールド 2020」や日本能率協会等主催の「国際総合物流展 2021」等の大型展示会を開催し、催事の開催実績を蓄積。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>名古屋ものづくりワールド 2020</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>国際総合物流展 2021</p>  </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・本施設の特長である大規模な屋外多目的利用地と展示ホールの一体利用による日本最大規模のアウトドア用品の展示会(「FIELDSTYLE JAMBOREE 2020」)や、約3週間にわたって開催された、本施設初となるロングラン催事(「ARASHI EXHIBITION "JOURNEY" 嵐を旅する展覧会」)など、多彩な催事を開催。 |
| 2021年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・資格試験、審査会など、開催が確実な催事を中心に、中長期的な継続利用を見込むことができる催事への誘致営業を実施。 ・前年度に引き続き、コロナに対応するための徹底的な感染症対策の実施や、割引制度、コロナ禍におけるコンサートを対象とした愛知県の補助金制度等の施策により、コンサートの開催件数が増加。 ・本施設で初めて、全ホールを利用した食品機械の大型展示会「FOOMA JAPAN 2021」を開催。 ・施設の特長である多目的利用地の利用許可件数も拡大し、自動車の試乗会、アウトドア関連催事、音楽フェス等の催事が開催。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>コンサートの様子</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>FOOMA JAPAN 2021</p>  </div> </div> |

| | |
|--------|---|
| 2022年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県の産業特性を活かしたテーマや愛知県内で未開催のテーマの展示会等をターゲットとした営業に取り組み、自動車関連の展示会「人とくるまのテクノロジー展」の翌年度開催が決定。 ・多目的利用地や外部厨房といった、本施設のみが持つ既存施設の優位性を押し出した営業活動に注力。 ・自動車関連企業の社内会議、販売ディーラーによる顧客招待イベント、社内従業員向けの催事等の企業イベントを積極的に誘致。 ・二輪車関連の催事として、「名古屋モーターサイクルショー」が開催され、愛知県、AICECも実行委員会の一員として参画。 ・サステナビリティへの社会的な関心の高まりに応え、選ばれる会場となるため、愛知県SDGs登録制度への参加や、自家消費型太陽光発電とCO2排出量ゼロ電気の購入による使用電力の100%グリーンエネルギー化の実現といった取組を主催者向けにPR。 ・2023年度以降の目標稼働率達成に向けた中期営業開発計画(2022-2024)を策定。 |
| 2023年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・中期営業開発計画(2022-2024)の実現に向けた具体的な行動計画を策定。 ・愛知県の産業振興に資する展示会の誘致営業においては、愛知県と連携し、出展者や来場者の集客支援や官民連携組織による補助に関する情報を提供し、その成果として、「食品」、「スマートシティ」、「農業」、「観光」等をテーマとする新しい展示会の開催が決定。 ・熱中症対策に取り組む屋外催事主催者向けに展示ホールと屋外多目的利用地の一体活用を提案するなど、2022年度に引き続き、多目的利用地や外部厨房といった本施設ならではの既存施設を活かした催事への営業に注力。 ・工作機械や輸送機器などの企業イベント主催者に、外部厨房の活用によるパーティプランや多目的利用地を利用した製品デモ、試乗イベントを提案。 ・代表企業であるGLイベントのノウハウを基に、グローバルホテルチェーンとの連携を強化。顧客データを活用し、MICE主催者となる海外顧客向けに本施設や周辺地域の魅力についてのプレゼンテーションを実施。 ・さらに、韓国の展示場であり催事主催者でもある「Kintex」が主催する催事の誘致や、同会場で開催された催事の出展者に対して、本施設で開催される催事への出展営業を実施するなど、海外の関係機関との連携強化を図った。 ・5月の「IMEX」(ドイツ)や12月の「IBTM」(スペイン)など、海外のMICE商談会に出展し、海外主催者間での会場の知名度を高めるためPRを実施。 |

【催事開催状況】

- ・営業部における営業誘致活動の成果として、2023年度までに447件の催事が開催されており、中でも、企業イベントやコンサート、BtoCイベントの開催件数が多くなっています。
- ・誘致・営業業務の展開として、当初は、開業初年度は15%、2年度目は19%、3年度目は21%、以降は25%の面積稼働率を想定としており、開業初年度は24%と好調な滑り出しでしたが、その後はコロナの影響により、12~16%台の稼働率が続くなど、稼働が低迷しました。
- ・そうした状況においても、コロナ禍における各種試験や屋外施設を活用した催事、東京オリンピックの開催に伴う大規模展示会など、状況に応じた積極的な誘致・営業活動により一定の稼働が確保されました。2023年度はマーケットもコロナ禍前の状況に戻りつつあり、2024年度以降、リピーターの確保などの積極的な営業展開により、目標稼働率を達成することが期待されます。
- ・来場者数についても、2020年度、2021年度にはコロナの影響を受けて低迷していたものの、2022年

度にはコンサート、BtoCイベント等の開催件数増加に伴い大きく回復するとともにその後も年々増加傾向にあり、来場者数の増加により、施設としての知名度向上や、それに伴う新規催事の開催等が見込まれます。

稼働率の推移（％）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 2019年度 | | | | | 4.8 | 31.2 | 27.6 | 51.0 | 15.7 | 26.9 | 10.4 | 0.3 | 24.0 |
| 2020年度 | 1.7 | 0.0 | 0.0 | 2.6 | 16.8 | 12.6 | 12.0 | 49.7 | 12.7 | 7.2 | 18.6 | 18.1 | 12.6 |
| 2021年度 | 3.8 | 15.8 | 25.9 | 11.8 | 18.2 | 32.9 | 20.6 | 26.5 | 16.9 | 9.5 | 10.3 | 5.6 | 16.5 |
| 2022年度 | 10.1 | 27.3 | 16.3 | 20.8 | 18.2 | 12.3 | 18.6 | 19.6 | 11.5 | 5.8 | 7.9 | 2.3 | 14.3 |
| 2023年度 | 12.8 | 16.8 | 17.6 | 15.5 | 10.0 | 10.4 | 14.6 | 45.6 | 19.2 | 3.6 | 5.4 | 17.1 | 15.7 |

来場者数の推移（人）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 2019年度 | | | | | 15,990 | 140,320 | 85,546 | 233,445 | 98,648 | 88,490 | 13,360 | 0 | 675,799 |
| 2020年度 | 0 | 0 | 0 | 1,448 | 5,749 | 12,334 | 9,280 | 54,138 | 49,151 | 10,435 | 19,792 | 22,519 | 184,846 |
| 2021年度 | 4,328 | 4,737 | 41,683 | 33,131 | 14,702 | 10,411 | 50,243 | 63,282 | 44,667 | 21,165 | 19,650 | 12,694 | 320,693 |
| 2022年度 | 53,862 | 48,422 | 76,114 | 85,300 | 14,044 | 50,586 | 54,742 | 74,253 | 46,456 | 12,382 | 36,544 | 11,202 | 563,907 |
| 2023年度 | 51,180 | 65,319 | 49,661 | 70,442 | 38,745 | 66,434 | 40,392 | 114,515 | 64,357 | 15,558 | 38,056 | 49,577 | 664,236 |

催事開催件数

| 催事類型 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 計 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|-----|
| コンサート | 20 | 11 | 19 | 23 | 28 | 101 |
| 企業イベント | 14 | 15 | 19 | 26 | 19 | 93 |
| B to C イベント | 20 | 15 | 14 | 25 | 11 | 85 |
| 試験 | 1 | 23 | 21 | 14 | 3 | 62 |
| 会議 | 17 | 9 | 12 | 3 | 14 | 55 |
| B to B 展示会 | 1 | 5 | 9 | 2 | 8 | 25 |
| ゲームイベント | 8 | 2 | 3 | 3 | 5 | 21 |
| スポーツ | 2 | 0 | 0 | 1 | 2 | 5 |
| 合計 | 83 | 80 | 97 | 97 | 90 | 447 |

iii) 評価と課題

- ・AICECにおいては、催事の類型ごとに担当者を決めて営業を行い、効率的にノウハウやネットワークを蓄積できる体制を整備することで、愛知県の産業特性に合ったテーマの展示会を始め、会議、BtoCイベント、コンサートなど、多様な催事の誘致が着実に進んでいます。また、AICECとして地元の商工会や経済団体に参画することで、独自に地元事業者とのネットワークを形成し、催事誘致や運営に活かすことができている。
- ・開業当初からコロナの影響を受け、思うように誘致が進められなかった中でも、徹底した感染防止対策を行い、試験やコンサートの会場としての需要を取り込むなど、これまでのAICECにおけるマーケティング・プロモーションや営業・誘致活動の推進、適切な主催者サポートの実施等の営業努力と経営努力が積み重なった成果が現れてきていると評価できます。

- ・また、展示会の誘致にあたっては、東京オリンピック開催に伴う関東圏の会場不足に対応し、着実に展示会の開催実績を積み重ねたほか、本県の産業振興・経済発展に資する展示会に対しては、愛知県と連携して、出展者・来場者募集の働きかけ等の主催者支援を行い、「自動車」、「スマートシティ」、「食」、「農」といった分野の新規展示会を誘致するなど、官民連携による誘致活動も効果的に実施され、成果を上げています。
- ・催事開催に対するコロナの影響がほぼ収束した開業5年目において、催事開催需要が全般的に回復基調にある中、本施設の稼働率も高まりつつあり、2024年度は目標稼働率である25%を達成する見込みです。
- ・一方で、外部厨房を利用した催事や国際的な催事については、積極的な営業を行っているものの、未だ開催実績が低迷しており、より一層の促進を図っていく必要があります。
- ・催事の開催件数が増加してきた2024年度以降は、一度誘致した催事の定着や規模拡大に向けた支援、開催実績を基にしたさらなる新規催事の誘致等を行うことが重要であることから、今後も戦略的な営業誘致活動を行い、本施設の安定した稼働が維持されることを強く期待しています。

【コラム⑤ 施設の特徴を活かした催事について】

本施設では、その広大な施設や先進的な設備を活かし、多様な展示会やイベントが開催されています。本コラムでは、本施設ならではの設備を活用して開催されている特徴的な催事を紹介します。

①屋外多目的利用地A

- ・ホールと一体活用が可能な多目的利用地を活用した催事としては、二輪車関係のBtoCイベント「名古屋モーターサイクルショー」(2022年～)や、全国の学生が小型レーシングカーを企画・設計・制作し、ものづくりの総合力を競う「学生フォーミュラ日本大会」(2024年)、野外音楽フェスなどが開催されています。
- ・面積が広く使い勝手が良いことに加え、海が近く、隣接したセントレアから飛び立つ飛行機や、天候によっては美しい夕日も見ることができ本施設は、屋外の催事会場として絶好のロケーションであり、主催者、出演者からも大変好評です。
- ・特に、「学生フォーミュラ日本大会」では、多目的利用地Aが競技場所となり、ピットエリアや走行競技エリア、コントロールタワー等が設置されたほか、参加者の熱中症対策として学生の待機場所やスポンサーの展示ブース等を屋内のホールに設置したことで、他会場と比べて快適かつ安全に開催されました。



写真提供: WATERBOMB

②展示ホールの連結利用

- ・本施設の展示施設は、展示ホールB～Fを連結することで最大50,000㎡となり、一体として活用できる展示面積としては国内最大級となります。
- ・この機能を活用して、本施設初の全館利用となった食品機械の大規模展示会「FOOMA JAPAN」(2021年)や、全ホールと会議室を活用した「日本外科学会定期学術集会」(2024年)が開催されました。また、日本最大級のアウトドア関連イベント「FIELD STYLE」(2020年～)や全国の若者がものづくりの技術を競う「技能五輪全国大会」(2019年～)等も定期的で開催され、会場として定着しています。
- ・2025年には、中部北陸地方で初開催となる「ツーリズムEXPOジャパン」も予定されており、本施設ならではの広大な展示面積により、これまで当地域になかった催事を誘致・開催することにつながっています。

③外部厨房棟

- ・展示ホールと多目的利用地の間に、本格的な調理器具や設備を備えた外部厨房棟が整備されています。
- ・本厨房棟を活用して、2021年には、AICECの企画により、大型催事の開催に併せて、地産地消のフレンチを来場者に提供する臨時レストラン「C'est Bon! CHITA」が運営されたほか、2024年開催の「SMS」では、VIPエリアでの軽食提供や懇親会のための調理も行われました。また、厨房棟は多目的利用地にも近いことから、野外フェスにおける調理場所や食事や飲料水の保管場所としても活用されています。
- ・2024年には食に関する展示会「FOOD STYLE」も初開催され、厨房棟は今後ますますの活用が期待されています。

今後も、本施設ならではの設備の活用方法を提案しながら、多様な催事の開催につなげていきます。

③予約管理・使用許可・料金徴収等業務

i) 要求水準

- ・施設や備品等の予約管理とともに顧客管理も可能な利便性の高いシステムの導入・運用を図る。
- ・利用申請の受付、使用許可に当たって、利用内容が本施設の設置目的に沿ったものであることを確認するとともに、公平・平等な利用を図る。
- ・予約状況等について、可能な限り利用者の便宜を図る。
- ・利用者の決定方法については、本施設の設置目的を踏まえるとともに、公平性を確実に担保するよう、十分に配慮する。
- ・愛知県国際展示場条例に定めた範囲で、運営権者が提案した施設及び貸出備品等の利用料金を徴収する。
- ・利用承認を受けた利用者に展示ホール、控室、会議室等の施設・設備・備品等を貸し出す。
- ・催事を円滑に運営させるため、利用者(Utilization)と利用日以前に十分な打ち合わせを行う。
- ・必要に応じて演出効果を上げ、スムーズに催事を実施できるよう助言やサポートを行う。

ii) 実施状況

- ・AICECでは、営業部と運営部が連携して、愛知県国際展示場条例等の関係法令を遵守し、予約管理・使用許可・料金徴収等の業務を実施しています。
- ・本施設の設置目的を踏まえて策定した施設の利用規約に基づき、公平性を担保して利用者の決定を行うとともに、利用許可や利用料金徴収の業務を確実に実施しています。コロナの影響を受けた時期においては、開催のキャンセルや開催時期の延期などが多く発生しましたが、適切に対応しました。また、2021年度には、キャンセル料が徴収できるような制度改定を行いました。
- ・また、新たな展示会や催事の誘致促進に向け、割引制度の導入・活用も行ってきました。具体的には、初回利用や早期申請に対する割引を設定することで、新規主催者による利用促進を試みるとともに、継続利用の促進や閑散期である1～2月の新しい催事の誘致のための割引制度を設けています。
- ・その他、催事開催前には、当日の利用方法や必要な備品等について主催者と事前に打合せを行い、円滑な催事開催のために必要なサポートを行っています。

主な取組

予約・顧客管理

- ・予約管理を正確に行うために、申請書のデータ入力から許可書の発行に至るプロセスを一元的に管理できるシステムを導入し、利用可能期間・施設について顧客ごと、催事ごとに明確にシステムで確認できるようにしています。

キャンセル料の導入

- ・利用料金の納入時期の変更等に柔軟に対応するため、2021年9月にキャンセル料を導入しました。
- ・従前は、利用が中止となった場合、その時点までに支払われている利用料金を返金しないという対応でしたが、2021年9月以降は、やむを得ない場合を除き、料金の納付・未納付に関わらず、利用規約に定めたキャンセル料を徴収することとしました。
- ・事前にキャンセル料の取扱いを定めることにより、利用料金の延納等があった場合にも、公平性を保って対応できるようになりました。

利用許可申請の受付開始時期の見直し

- ・主催者のニーズに合わせて、多目的利用地の受付開始時期の前倒し等の見直しを行いました。

利用料金の割引制度

- ・2021年度以降、利用料金の割引制度を設け、コンサートやスポーツイベント、複数年まとめて利用許可申請がされる催事等の利用促進を図りました。

新型コロナウイルス感染症の影響への対応

- ・県の緊急事態措置等に対応するためにやむを得ず開催時期を延期した催事について、利用料金の還付等の手続きをとることなく催事開催につなげるため、支払い済みの利用料金を延期後の日程分の利用料金に充当することを認めるなどの対応を行いました。
- ・主催者の負担軽減及び安全で円滑な催事開催のため、2021～2022年度の計4件の催事において、感染防止対策を施した飲食スペースを提供するモデル事業を行いました。さらに、その実証結果を情報発信することで、その後の本施設での催事開催をサポートするとともに、主催者の感染防止対策の意識向上に努めました。

展示ホール利用料金(2025年3月時点)

| 展示ホール（1ホールあたり）*1*2 | | | | | |
|--------------------|----------------------|------------|-------------|------------|-----|
| 項目 | 利用面積 | 利用時間 | | | 割引率 |
| | | 0:00～12:00 | 12:00～24:00 | 0:00～24:00 | |
| 利用料金（円） | | | | | |
| 展示ホールA | 8,000㎡超 10,000㎡以下 | 1,477,320 | 1,477,320 | 2,954,640 | 0% |
| | 5,000㎡超 8,000㎡以下 | 1,181,856 | 1,181,856 | 2,363,712 | 20% |
| | 5,000㎡以下 | 960,258 | 960,258 | 1,920,516 | 35% |
| | 6,000㎡超 10,000㎡以下 | 1,238,640 | 1,238,640 | 2,477,280 | 0% |
| 展示ホールB～F | 3,000㎡超 6,000㎡以下 | 1,114,776 | 1,114,776 | 2,229,552 | 10% |
| | 3,000㎡以下 | 743,184 | 743,184 | 1,486,368 | 40% |
| | | | | | |

貸出備品利用料金(一例)(2025年3月時点)

| 項目 | 仕様 | 利用場所 | | | 利用料金（円） | 単位 |
|--------------------|--------------------------|------|-----|-----|---------|------|
| | | ホール | 会議室 | その他 | | |
| 椅子（1人掛用） | W490*D535*H775 | ○ | ○ | ○ | 300 | 1点/日 |
| メモ台付き椅子（1人掛用） | W490*D535*H775 A3対応 | ○ | ○ | ○ | 300 | 1点/日 |
| 長机 | W1800*H720 | ○ | ○ | ○ | 900 | 1点/日 |
| ハンガーラック（ハンガー20本付き） | W1500*D500D*H1700 | ○ | ○ | ○ | 1,100 | 1点/日 |
| 丸テーブル（白布付き）1800サイズ | 1800φ | ○ | ○ | ○ | 3,300 | 1点/日 |
| 丸テーブル（白布付き）1200サイズ | 1200φ | ○ | ○ | ○ | 2,500 | 1点/日 |
| ハイテーブル | 800φ*H1000 | ○ | ○ | ○ | 1,600 | 1点/日 |
| ハイチェア | W430*D510*H1020 | ○ | ○ | ○ | 1,100 | 1点/日 |
| 長椅子（ベンチ） | W2025*D675*H410 | ○ | ○ | ○ | 1,100 | 1点/日 |
| レセプションチェア | W500*D540*H880 | ○ | ○ | ○ | 1,500 | 1点/日 |
| 演台 | D600*H1066* W600/W900 | ○ | ○ | ○ | 1,100 | 1点/日 |
| 花台 | W900*D450*H900 | ○ | ○ | ○ | 600 | 1点/日 |
| 姿見鏡 | W610*D450*H1700 | ○ | ○ | ○ | 1,200 | 1点/日 |
| ホワイトボード | W1914*D550*H1800 両面仕様 | ○ | ○ | ○ | 1,500 | 1点/日 |
| 掲示板 | W1831*D630*H1800 両面仕様 | ○ | ○ | ○ | 800 | 1点/日 |
| パーティション H1450 | W3010*D430*H1450 | ○ | ○ | ○ | 900 | 1点/日 |
| パーティション H2100 | W1800*D430*H2100 | ○ | ○ | ○ | 1,200 | 1点/日 |
| 案内板 | W500*D280*H1352 | ○ | ○ | ○ | 700 | 1点/日 |

iii) 評価と課題

- ・予約管理・使用許可・料金徴収については、統一的な予約管理システムの導入等により、円滑かつ適切に業務が実施されています。
- ・利用申請の受付や実際の施設の利用にあたっては、関係法令に基づき「利用規約」を整備し、料金収受や利用方法について利用者に周知することで、公平・平等な利用が図られており、これまでに大きなトラブル等もなく、概ね問題なく業務が実施されています。
- ・また、キャンセル料の導入や利用許可申請の受付開始時期の見直しを行うなど、関係法令の範囲内で、円滑な施設運営や利用者の利便性向上に係る創意工夫がなされています。
- ・一方、これまで、戦略的な催事誘致や利用促進の観点から割引制度を導入してきましたが、割引を過度に適用すると顧客単価の下落や収益性の低下にもつながるため、その運用には明確な戦略性が必要です。
- ・ホールや会議室の利用だけでなく、催事に付随して利用される売店やフードコート、その他の設備等の売上にも着目するなど、今後は「顧客単価額」を指標として、これを増加させるような運営方針を導入することで、本施設の競争力を持続的に強化し、収益性を高めることが期待されます。

④催事開催支援業務

i) 要求水準

- ・利用者の申込み時等において、利用者のニーズを踏まえながら、展示ホールや会議室等の諸室、机や椅子、吊り物等の会場設営、音響・映像・照明等の各種設備の効果的な利用方法についてのアドバイスを行う。
- ・利用者が外部から持ち込む機材の搬入及び搬出に立ち会う。
- ・吊り物・音響・映像・照明等の仕込み、操作、撤去、復元作業を行う。利用者が行う場合には、指導、助言、監督をする。
- ・音響・映像・照明等の設備、机・椅子等の備品の整備管理、及び展示ホール・会議室等の点検と火元確認消灯を行う。
- ・その他、必要な利用者のサポート業務を行う。

ii) 実施状況

- ・AICECでは、主に運営部において予約申込後の催事開催を支援しています。催事ごとに個別の担当者がつき、主催者のニーズに合わせたホール、会議室、備品の利活用や設営、当日の来場者の動線、併催催事との調整、共用部分の利用方法など、安全かつ効果的に催事を開催するためのアドバイスやサポートを行っています。
- ・また、本施設では、多くの出展者がブースを設営する展示会や、音響・映像・照明等の機材を多く用いるコンサートが多く開催されており、施設を損傷することなく安全に設営・撤去が行われるよう、会場設営等を専門とする協力企業とともに、助言、監督を行っています。なお、万一施設に損傷等があった場合には、事前に提示している規約に則り、主催者に対して適切に原状復旧や損害賠償を求めています。
- ・催事開催後には、毎回主催者からの満足度アンケートを実施しており、業務改善に役立てています。アンケートにおいて特に評価が低かった項目については、適宜利用者へのヒアリング等を行い、必要な改善を図るなど、PDCAサイクルによる取組を実施しています。

- ・催事開催に係る各種助言等と合わせて、事前打合せ等で主催者のニーズを把握したうえで、清掃や警備といった利用者支援に関する有料サービスを積極的に企画・提案するなど、利用者の利便性を向上させるとともに、付帯・任意事業の収入増加を図ることができるような取組も推進しています。
- ・こうした催事開催前後にわたる支援体制により、以下に示すような多様な催事の開催実績が積み重ねられてきています。

主な開催催事（来場者数が多いもの）

| 開催年月 | 催事名 | 催事内容 | 総来場者数 |
|---------|--|----------|---------|
| 2019年8月 | AICHI IMPACT! 2019(展示場のオープニングイベント) | BtoCイベント | 34,160 |
| 9月 | WIRED MUSIC FESTIVAL' 19 | コンサート | 18,000 |
| 11月 | 名古屋キャンピングカーフェア 2019 Autumn | BtoCイベント | 21,078 |
| 11月 | 第57回技能五輪全国大会／第39回全国アビリンピック | 競技会 | 187,470 |
| 12月 | FIELDSTYLE JAMBOREE 2019 | BtoCイベント | 42,000 |
| 2020年9月 | 名古屋ものづくりワールド 2020 | BtoB展示会 | 10,720 |
| 11月 | FIELDSTYLE JAMBOREE 2020 | BtoCイベント | 24,000 |
| 2021年2月 | 第110回 看護師国家試験 | 試験 | 4,750 |
| 3月 | 国際物流総合展 2021 | BtoB展示会 | 12,549 |
| 6月 | FOOMA JAPAN 2021(国際食品工業展) | BtoB展示会 | 22,420 |
| 11月 | ロボカップアジアパシフィック2021あいち | 競技会 | 12,588 |
| 2022年4月 | 第1回名古屋モーターサイクルショー | BtoCイベント | 36,188 |
| 7月 | ROBOT TECHNOLOGY JAPAN 2022 | BtoB展示会 | 41,880 |
| 8月 | グラブルエクストラフェス | BtoCイベント | 7,527 |
| 11月 | FIELDSTYLE JAMBOREE | BtoCイベント | 45,000 |
| 2023年4月 | 第2回名古屋モーターサイクルショー | BtoCイベント | 42,355 |
| 5月 | 人とくるまのテクノロジー展2023 NAGOYA | BtoB展示会 | 25,497 |
| 7月 | WATER BOMB | コンサート | 15,000 |
| 7月 | FIELDSTYLE JAMBOREE | BtoCイベント | 50,000 |
| 11月 | 第61回技能五輪全国大会・第43回全国アビリンピック | 競技会 | 40,496 |
| 2024年3月 | SMART MANUFACTURING SUMMIT BY GLOBAL INDUSTRIE | BtoB展示会 | 10,072 |

OBtoB展示会
ROBOT TECHNOLOGY JAPAN 2022



人とくるまのテクノロジー展
2023 NAGOYA



SMART MANUFACTURING
SUMMIT BY GLOBAL INDUSTRIE



○競技会

技能五輪全国大会



ロボカップアジアパシフィック 2021 あいち



○BtoCイベント

名古屋キャンピングカーフェア



FIELDSTYLE



○コンサート



iii) 評価と課題

- ・AICECでは、催事ごとに個別の運営担当者を配置し、主催者に対して適切なアドバイスやサポートを行うことで、展示会や大規模なBtoCイベント、コンサートなど、多様な催事を円滑かつ安全に運営するとともに、催事開催支援に係るノウハウを蓄積してきました。
- ・また、協力企業との連携や利用者満足度アンケート調査の実施による業務改善なども図り、開業5年間の業務実績を通じて、大規模MICE施設としての催事開催支援体制が徐々に整ってきています。催事主催者からも、AICECによる催事の開催支援について、きめ細かく臨機応変な対応で非常に満足しているとの評価をいただいております。民間事業者によるハイバリューオペレーションが実現されていると評価することができます。
- ・2024年度に入ってから稼働率が安定して上昇してきており、今後は、これまで以上に複数催事の併催が増加することが見込まれています。複数催事が同時に開催される際には、催事間の調整が必要となることから、より細やかかつ綿密に運営を行うことが求められますが、引き続ききめ細やかな催事への支援を行い、これまで蓄積してきたノウハウにより、新規顧客の満足度を高めることで、施設の継続利用につなげていくことが期待されます。

⑤施設維持管理業務

i) 建築物保守管理・設備保守管理

ア) 要求水準

- ・本施設における建築物の機能及び性能を維持し、本施設におけるサービスが円滑に提供され、本施設の利用者が安全かつ快適に利用できるよう、建築物及び本施設に設置される設備の点検、保守、修繕、更新を実施する。

イ) 実施状況

- ・AICECでは、施設管理部において、建築物及び設備の保守管理を実施しています。
- ・建築物保守管理の対象範囲は、屋根、外壁、建具(内部・外部)、天井、内壁、床、階段等各部位、設備保守管理の対象範囲は、本施設の全ての設備(外部の設備を含む)です。毎年度末に作成する年間業務工程計画表に基づき、適正に保守管理業務を行っており、これまでに催事の開催に影響するような大きな不具合等は生じていません。
- ・広大な敷地を持つ本施設の維持管理業務の内容は多岐にわたり、点検・保守等の実務に関しては、AICECによる公募プロポーザルで選定された専門業者へ業務委託を行っており、委託事業者と連携して業務を実施することで、AICECにおける施設維持管理ノウハウの蓄積が図られています。
- ・また、施設維持管理業務全般の実施に際しては、支出の透明性、公平性を確保するため、業者選定や支払に係る手続き、第三者による監査の実施等について定めた「実施細則」に基づくオープンブック方式が導入されており、適正な手続きにより維持管理業務を実施しています。
- ・さらに、保守管理業務の一環として、実施契約に基づき、業務実施上で必要となった設備の更新投資や新規投資を行い、利便性向上を図っています。2021年度には、主に工業機械関係などの大型電力を必要とする催事に対応すべく、電気幹線や接続盤の設置といった新規投資を行いました。この新規投資により、大規模な食品機械の展示会「FOOMA JAPAN」を東海圏で初開催することができ、今後の大型催事実施に対応するための機能増強が図られました。
- ・その他、2023年度以降は、より一層効果的な業務推進のため、業務体制の見直しや効率的な設備運用について、施設運営に関する知見を豊富に有する代表企業であるGLイベントから助言を受けています。

ウ) 評価と課題

- ・建築物及び設備の維持管理については、専門業者との連携のもと、オープンブック方式に基づき適切な保守、修繕が行われ、安全かつ快適な施設環境が保持されています。
- ・また、電力を多く消費する展示会の開催を念頭とした電力増強や、eスポーツイベントやインターネット配信を行う催事を想定した高速インターネット回線の導入など、多様な催事に対応できるよう、AICECの提案による新規投資・更新投資も行われています。
- ・今後は、本施設の築年数が経過するにつれて維持管理に係る負担も増すことが想定されることから、今まで蓄積されてきたノウハウに加え、構成企業の知見等も取り入れながら、効率的に業務を行うことが重要となってきます。また、技術の進歩や周辺環境の変化に応じて新規に投資を行うなど、施設の魅力を高めるよう努めることも求められます。

ii) 備品等保守管理及び設備・備品等調達

ア) 要求水準

- ・施設運営上必要となる備品等について、適宜点検、保守、修繕を行い、性能及び機能を維持するとともに、必要に応じて更新を行う。

イ) 実施状況

- ・AICECでは、施設管理部及び運営部において備品等の保守管理、調達等を行っています。
- ・備品等保守管理の対象となる備品の範囲は、本施設で使用・保管しているすべての備品です。備品の管

理にあたっては、備品台帳を整備しており、毎年度1回は台帳に誤りがないか確認を行っています。

- ・備品等の利用状況や利用者の意向を踏まえ、貸出実績の多いパーティションや利用者からの要望があった台車を追加するなど、効果的に業務が実施できるよう利用者の声に耳を傾けながら、定期的な見直しを行っています。

ウ) 評価と課題

- ・AICECにおいては、催事の開催や運営に必要な備品類について、利用者の利便性を高めるよう、備品台帳を整備し、適切に備品等の保守管理が行われています。
- ・本施設で管理する備品の数は膨大であり、年数の経過とともに劣化も進んでいきますが、引き続き機能が維持されるよう、定期的な点検、見直し等を行い、一層質の高いサービスを維持していくことが求められます。

iii) 外構施設保守管理

ア) 要求水準

- ・施設の利用者が安全かつ快適に利用できるとともに、周辺エリアも含めた美しい環境を形成・維持するため、敷地内の外構施設(通路・連絡デッキ・駐車場・多目的利用地・吊下式緑化パネル、雨水管、交通標識板を含む)の各部の点検、保守、更新、修繕、植栽の保護・育成・処理を実施する。

連絡通路



植栽



イ) 実施状況

- ・敷地内の通路やエントランス部、連絡デッキ、駐車場(搬入用、来場者用)、多目的利用地、吊下式緑化パネル(パーティカルフォレスト)、敷地内の植栽などを対象に、利用者による安全かつ快適な利用、及び美しい環境を形成・維持するため、各部の点検、保守、更新、修繕、植栽の保護・育成・処理を実施しています。
- ・大規模なMICE施設である本施設では様々な催事が開催され、主催者、来場者の満足度向上のためには、整った外観も重要な要素のひとつとなることから、確実に設備の点検、植栽の育成を行うよう努めています。
- ・なお、実施契約における多目的利用地Aの運営期間は開業から2024年3月まででしたが、期間終了時に多目的利用地Aの他事業での活用が具体化しておらず、屋外催事の会場としてのニーズもあったため、運営期間終了後も引き続きAICECが指定管理者として同施設の維持管理運営を継続しています。

- ・2024年度には、多目的利用地Aにおけるレーシングカーの走行を伴う「学生フォーミュラ日本大会」の開催にあたり、安全確保のため、ガードレールが追加で設置されました。本設備についても、機能を維持し、安全に催事を開催できるよう、日々適切に維持管理を行っています。

ウ) 評価と課題

- ・外構施設の保守管理については、本施設の環境保全やデザイン上での特徴となっているバーティカルフォレストの維持管理等も含め、概ね適切に業務が実施されています。
- ・特に、多目的利用地においては、屋外の音楽イベントや自動車関連イベントを始め、本施設の特徴を活かした多様な催事が開催されており、こうした催事を安全に開催できるよう、アスファルト舗装や法面の整備など、日常の保守管理を適切に実施するとともに、催事ごとに適切な安全対策や主催者のサポートを行っていくことが求められます。
- ・また、施設周辺の植栽について、時期や場所により一部枯れている箇所が見られるため、広大な敷地の整備には時間と手間が必要となりますが、景観維持のためにもより一層適切な管理を行うことも必要です。

【コラム⑥ 愛知県国際展示場におけるサステナビリティについて】

昨今、社会全体において、環境への配慮や持続可能性への取組がこれまで以上に重要視されており、MICE分野でも「サステナビリティ(持続可能性)」が注目されています。

国は、持続可能性への取組について MICE主催者の関心が高まっていることを踏まえ、「新時代のインバウンド拡大アクションプラン」(2023年5月 観光立国推進閣僚会議決定)において、日本で開催されるMICE及びその開催都市における持続可能性に配慮した取組の促進に関する記載を盛り込みました。

こうしたトレンドの中、本施設は、持続可能な展示場運営を目指し、整備計画の段階から様々なサステナビリティ施策を実施してきました。以下に、その主要な取組を紹介します。

①サステナブル・デザインの導入

- ・本施設は、CASBEE(建築環境総合性能評価システム)で最上位のSランクを取得し、ZEB Ready認定を受けています。
- ・設計の段階から環境に配慮した施設とすることを求めた結果、一次エネルギー消費量を50%以上削減し、環境負荷を大幅に軽減しており、省エネに関する賞を複数受賞しています。
- ・また、エントランスにはバーティカルフォレストを設置し、視覚的にも環境デザインを強調しています。

②クリーンエネルギーの利用

- ・自家発電した太陽光発電電力と、「愛知Greenでんき」※を利用することで、施設利用電力の100%クリーン電力化を達成し、CO2排出量の削減と地域経済の循環を実現しています。

※ 愛知Greenでんき…中部電力ミライズが提供する法人向けのCO2フリー電気。愛知県を流れる矢作川・豊川などの豊かな水資源を活用して発電された、カーボンニュートラルに配慮した電気であることに加え、電気料金により県内の再生可能エネルギーの開発などが促進されている。

③カーボン・オフセットの推進

- ・催事開催時の電力やガスの使用量を適切に算出し、主催者や関係事業者に対して情報提供を行うことで、カーボン・オフセットによる「ネットゼロカーボンイベント」(温室効果ガスの排出を実質的にゼロとするイベント)の開催を支援するとともに、企業の環境への貢献PRやブランディングにも寄与しています。

④海洋汚染対策

- ・美しい海に囲まれた立地を維持するため、海洋汚染対策にも重点を置いています。
- ・清掃時には、川や海で分解しにくい界面活性剤を含む清掃を削減し、化学物質や環境汚染物質を含まないアルカリイオン電解水を使用するとともに、屋外で開催されたイベント等による湾へのゴミ飛散対策として、定期的に周辺地域のごみ拾い活動を実施するなど、海洋環境の保護に努めています。

⑤地元企業の支援

- ・催事の開催を通じて、地元への経済効果が広まるよう、来場者に周辺地域の周遊や宿泊を促す仕組み作りを行うことで、地元企業との連携を強化するとともに、地元企業をよりよく知ってもらう機会の創出に取り組んでいます。

このように、本施設は持続可能な運営を実現するために多岐にわたる取組を行っており、これらの取組は、環境負荷の軽減だけでなく、地域社会との連携強化にも寄与しています。今後も、事業を通じて、持続可能な社会の実現を図るべく、また、世界的なトレンドに合致した選ばれるMICE会場を目指して、さらなるサステナビリティの向上を目指し、継続的な改善を図っていきます。

iv) 警備

ア) 要求水準

・本施設における不審者の侵入、火災、盗難の防止及び出入り者のチェック、管理並びに各種不正、不法行為の警戒をすることをもって本施設の円滑なる運営に寄与することを目的として実施する。

イ) 実施状況

- ・本業務の対象範囲は、公共施設運営権の対象範囲に加え、多目的利用地Aや敷地外周も含まれます。
- ・具体的な警備業務として、中央管理室における24時間体制の定位置業務及び日に10回程度の巡回業務を行う有人警備と、警備員の所持端末と連携した機械警備を組み合わせ、館内における非常事態への警戒及び発生時の迅速な対応を行っています。
- ・「愛知県大規模展示場整備事業」における「整備事業セキュリティライン」の考え方では、敷地内を複数にエリア区分し、それぞれの区分ごとに、求められるセキュリティの程度をレベル0からレベル4までの5区分に分けて設定しており、警備業務はこの考え方に基づいて実施されています。セキュリティレベルは、催事の内容や開催場所によっても変化するため、催事の開催状況に応じて人員配置数や巡回回数を変えるなどの柔軟な対応を行っています。
- ・業務の実施にあたっては、侵入防止のゲートや火災・防災・防犯警報などの設備も活用し、効果的かつ効率的な警備体制を整えており、これまで、無断侵入者などの危険事象は発生していません。

ウ) 評価と課題

- ・警備業務については、施設管理部を中心として、中央管理室における定位置及び巡回による有人警備と機械警備を組み合わせ適切に警備業務を実施しているとともに、催事開催時には必要に応じて警備員を配置するなどの対応を図っており、これまで大きなトラブルは発生していません。
- ・警備の効率的・効果的な実施にあたっては、従来の警備方法に加え、人感センサーや画像解析システム、警備ロボットといった新しい技術の活用について、情報収集や導入の検討を積極的に行い、より一層効果的・効率的に業務を行うことが求められます。

v) 衛生管理・清掃

ア) 要求水準

・施設及び敷地を美しく衛生的に保ち、本施設における公共サービスが円滑に提供され、施設の利用者が安全かつ快適に利用できるよう、環境衛生管理・清掃業務を実施する。

イ) 実施状況

- ・運営権の設定対象範囲全般において、施設及び敷地を美しく衛生的に保ち、利用者が安全で快適に利用できるよう、環境衛生管理・清掃業務を実施するとともに、空港島地域の環境美化のため、敷地周辺の清掃にも協力しています。
- ・清掃業務については、原則として催事利用に係るホール、会議室等は主催者、それ以外の共用部分はAICECの負担で実施しています。
- ・AICEC実施箇所については、催事の有無に関わらず日常的に行う定期清掃と、催事開催状況に応じた随時の清掃を組み合わせることで、快適な利用と効率的な業務推進の両立を目指しています。

ウ) 評価と課題

- ・定期的な衛生管理・清掃とともに、必要に応じて催事開催の期間中及び期間後の清掃等を実施しており、館内及び敷地の美化が保たれていることから、概ね適切に衛生管理・清掃業務が実施されていると評価できます。
- ・一方、主催者からは、催事開催前の会場設営時におけるトイレ等の清掃について改善すべき点があったとの声もあるため、状況に応じて清掃回数を増やすなど、より柔軟な対応が求められます。
- ・また、本業務の一層効率的な実施のため、ロボットやAIといったテクノロジー等の技術の導入も積極的に検討していくことが望まれます。

共用部



トイレ



vi) 総合案内等

ア) 要求水準

- ・本施設内の案内や催事開催等に関する問い合わせ等に対応する総合案内窓口を設置し、来場者や施設利用者への情報提供サービスを実施する。

イ) 実施状況

- ・エントランス空間の中央付近において総合案内窓口を設置し、来場者や施設利用者への情報提供に加え、車椅子の無料貸出や周辺地域のパンフレットの頒布など、利用者の利便性向上に係る取組を行っています。
- ・総合案内では窓口及び電話での対応を行っており、国外からの来場者へも適切に情報提供が行えるよう、英語、中国語でも対応できる体制を整えています。
- ・問合せ内容として、駐車場の事前精算に係る内容が多いことから、窓口以外の場所においても、駐車割引券の発行等に関する音声案内を実施するなどの工夫を行っています。また、授乳室の案内の際には入口まで同行し、利用者を4組までに限定することで、スペースを確保し落ち着いて利用できるよう配慮を行っています。
- ・その他にも、本施設には、幅広い年齢層の方が来場されることから、催事の特徴に合わせた案内人員の配置や丁寧な対応を行い、年配の方からお子様まで多様な利用者に快適に施設をご利用いただけるような運営に努めています。

ウ) 評価と課題

- ・催事開催時には、総合案内窓口において、来場者や施設利用者への情報提供が実施され、催事の円滑な開催に貢献しています。

- ・案内業務の実施にあたっては、多言語対応や車椅子の貸出、授乳室を安心して利用できるような配慮など、多様な利用者が快適に施設を利用するための体制が整えられており、利便性向上に努めていると評価することができます。

⑥修繕等業務

i) 要求水準

- ・事業期間終了までの間、施設の機能及び性能を維持し、本施設におけるサービスが円滑に提供され、施設の利用者が安全かつ快適に利用できるよう、「中・長期修繕計画」に基づいて、施設全体の修繕・更新を実施する。
- ・「修繕」とは、規模の大小を問わず劣化や故障に対する全ての修繕をいう。
- ・業務の対象範囲は、運営権の対象範囲及び設備等とし、施設維持管理業務(保守管理業務)と一体的に実施する。

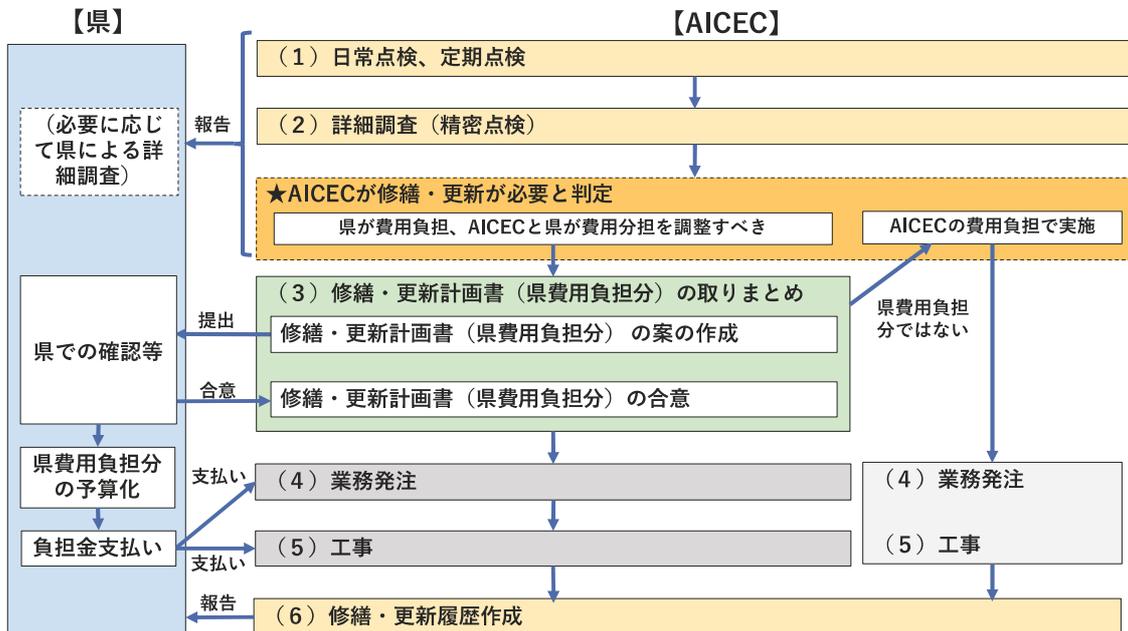
ii) 実施状況

- ・本施設における修繕等業務は、本施設の施工事業者・設備事業者が推奨する修繕等業務の対象範囲や想定時期が示された「維持保全計画書」及び県とAICECの費用分担を示した「中・長期修繕計画」に基づき、両者での調整及び合意のうえで実施されています。
- ・「中・長期修繕計画」においては、主に建物基幹部分の機能維持に必要なものを県の費用負担、運営・運用の機能・環境の維持に必要なものをAICECの費用負担で行うこととし、費用負担の区分に関わらず、修繕の発注や実施・監理、施工業者への支払等はAICECが包括的に実施することとなっています。
- ・県が費用負担を行う修繕等業務については、AICECが作成した次年度の修繕計画を基に、県とAICECによる調整会議で修繕箇所を決定し、県において予算措置を行います。県の費用負担に係る修繕業務としては、2024年度において、誘導灯バッテリーの交換及び漏水対策工事に係る予算を計上しています。
- ・本施設の修繕は、「施設維持管理業務」の一環で実施している日常点検・定期点検の結果や実際の運用状況を踏まえたうえで、専門業者の意見も取り入れながら、長期的なサイクルコストの縮減を意識して、必要な箇所から効率的に実施しています。
- ・これまでAICECにおいて実施してきた修繕としては、催事開催に伴う外壁やホール内の壁等の破損への対応のほか、非常用発電機や空調の配管等も挙げられますが、いずれも、各種点検や見回りが確実に行われていることから、早期に対応することができており、催事に影響を与えたことはありません。なお、施設・設備等に不測の不具合が発生した際についても、「中・長期修繕計画」での費用分担等のルールに基づき、適宜、必要な修繕等を行っています。



漏水対策工事を実施した
屋上ハイサイド

中・長期修繕計画に基づく修繕業務のプロセス



iii) 評価と課題

- ・これまでの5年間の運営期間において、催事等に影響するような施設の不具合は生じておらず、施設の利用者が安全かつ快適に利用できるよう、実施すべき修繕等が適切なタイミングで実施されていると評価できます。また、県が費用負担をする修繕等業務に係る手続きについても、毎年度の調整会議の結果を踏まえ、適切に進められています。
- ・今後は、年数の経過や施設の利用頻度の増加に伴い、設備等の経年劣化が進むとともに、修繕の対象となる建物・設備等及び必要となる費用も増加していくことが想定されます。こうした事象に対応するため、修繕履歴等のデータベースの構築や他類似施設における修繕状況の把握など、修繕・更新に関するデータやノウハウの蓄積・活用が重要となることから、計画的・合理的な修繕等が実施されるよう、AICECにおけるより一層の実施体制の充実が求められます。

⑦ 渋滞対策、防災・災害対策等

i) 渋滞対策

ア) 要求水準

- ・大規模イベント開催時においては、警察署等の諸機関や周辺事業者との連携を図りながら、イベント主催者との十分な事前協議・調整を行い、大量の車両に対応できるような車両誘導計画の策定、イベント主催者や出展者との密な連携体制の構築、整理誘導員の配置等を行うなど、適切な渋滞対策を講じる。

イ) 実施状況

- ・本施設では、1日数万人規模の来場者を受け入れる大規模催事も多く開催されていますが、そうした大規模催事開催時には、多くの搬入車両や来場者車両が集中し、周辺道路も含めた混雑や渋滞が発生し

ています。

- ・そのため、大規模催事開催時には、事前に警察署や地元自治体、中部国際空港株式会社、名古屋鉄道株式会社、愛知道路コンセッション株式会社等の周辺事業者と交通対策会議を開催するなど、関係各所との協議・調整を行い、多くの車両に対応するため誘導の調整や路上対策に取り組んでいます。特に、電車での来場者が多く、特定の時間に利用が集中するコンサート等の催事では、名古屋鉄道株式会社による電車の増便・増結等の対応が行われています。
- ・また、AICEC独自の取組として、駐車場出入口でのナンバー識別を行うことにより、来場者の地域特性や、滞在時間や入出庫が集中する時間等のデータを蓄積しており、状況に応じて混雑する前に第2駐車場を開放する、場内の誘導人員を強化するなど、混雑の回避に役立てています。
- ・さらに、県とAICECで構成される官民連携組織においても、来場者の利便性向上及び自動車利用者の減少による渋滞緩和、公共交通機関の負担軽減を実現するため、大規模催事を対象に、主催者に対してシャトルバス運行に係る経費を補助しています。

混雑した駐車場



渋滞の様子



ウ) 評価と課題

- ・AICECでは、中部国際空港株式会社や交通事業者等などの関係機関と連携することにより、大型の催事開催時における渋滞対策を講じています。
- ・一方で、現状では、車で来場者が集中するような場合には、入場車両の待ち行列が生じることで、周辺道路まで渋滞が発生しており、主催者からも、より一層の渋滞対策を求める声が上がっています。また、コロナの影響が終息し、今後は本施設の利用率向上や大型催事の実施に伴う来場者の増加、インバウンドによる空港利用者の増加などにより、島内や周辺地域における道路渋滞や駐車場の混雑がさらに進んでいく可能性もあります。
- ・こうした状況に対応していくため、今後も、入場に係る時間短縮に向けた見直しや、交通対策会議等による関係者間の情報共有・連携体制の強化、混雑状況に合わせた適切な駐車場の開放や場内の誘導等、ハード、ソフト両面の改善により、渋滞を緩和するための対策を行うことが期待されます。

ii) 防災・災害対策、リスク対策

ア) 要求水準

- ・地震、火災、風水害等の災害及び事故による傷病等が発生した場合において、迅速かつ的確な対応ができるよう、防災計画を定めるとともに、日頃から訓練を行い、利用者、職員等の安全確保を図る。

- ・災害等の緊急事態が発生した場合には、被害が最小になるように迅速かつ最善の対応をとる。
- ・また、施設の利用者等の急な傷病等に適切に対応できるよう、近隣の医療機関とも連携し、緊急時には的確な対応を行う。

イ) 実施状況

- ・今後起こりうる大規模災害を想定し、自然災害及び事故等の発生時に迅速かつ的確な対応ができるよう、実際の災害時の対策・対応を見据えた防災計画の策定・見直しを行い、防災訓練を年2回実施しているほか、隣接する中部国際空港と連携した避難誘導體制の整備や合同訓練等に向けた調整を行っています。
- ・また、帰宅困難者用の防災備蓄品として、延べ9,000食分の食料及び飲料、保温用アルミブランケットを保管し、適切に更新を行うとともに、周辺のコンビニエンスストア等とも連携した食料確保の体制を整備しています。
- ・催事開催時等において、来場者による事故等による疾病等が発生した際には、主催者や地元の警察、消防等とも密接に連携しながら、速やかな対応をしています。
- ・さらに、2021年度のコロナ禍の期間において開催された音楽イベントでのトラブル発生を教訓に、催事開催に伴うリスクについて、組織として分析を行い、未然に防止できるよう、社内において危機管理マニュアルを整備しました。
- ・マニュアルに基づく危機管理として、社内に設置するリスク評価部会(関係部門の長で構成)において組織横断的なリスクの評価や対策を検討し、リスクの分類・種別分類、収集すべき情報を整理して対応するとともに、必要に応じて愛知県や関係機関との情報共有・調整を行うなどの取組を進め、リスクマネジメントの強化も図っています。

ウ) 評価と課題

- ・AICECでは、これまで、自然災害に係る防災・災害対策を充実させるとともに、催事開催時に来場者の疾病等が発生した際には、関係機関と連携して適切に対応してきました。
- ・また、催事開催に伴う各種リスクについても、これまでの経験の蓄積を踏まえ、リスクマネジメントを強化する体制整備を図るなどの対応を行うことができています。
- ・開業5年間において、幸いにも本施設における大規模で甚大な震災や風水害の被害は発生しなかったものの、人工の空港島という立地特性もあり、今後の震災や風水害等の発生時には、大規模かつ複合的な被害が発生する可能性があります。そのため、引き続き、周辺施設や関係機関との連携体制を強化しながら、防災・災害対策をより一層充実させる必要があります。
- ・また、催事開催時に重大なトラブルが発生したり、空港島という立地ゆえに天候悪化時に催事開催が不可能となる事象が多発したりすれば、本施設全体のイメージ低下につながる恐れがあることから、ブランドの毀損やレピュテーションリスクに対するマネジメントも重要です。
- ・今後、施設の稼働が高まり、多様な催事が開催されることで、これまで想定していなかったリスクが発生する可能性があるため、本施設のさまざまな利用方法を想定し、適切なリスク回避策の実施やリスク発生時の対応計画を策定するなど、リスクマネジメントの観点から十分なリスク管理体制を構築する必要があります。

【コラム⑦ コロナ禍における音楽イベントへの対応について】

本施設においては、これまで、展示ホールAや屋外多目的利用地において、コンサートやフェスなど多くの音楽イベントが開催されてきました。コロナの流行中には、他の催事と同様、音楽イベントも大きな制限を受け、開催件数も落ち込みましたが、県とAICECにおいては、催事の安全な開催に向け、コロナの終息後も見据えた対応や取組を行ってきました。本コラムでは、こうした音楽イベントに対する取組をまとめています。

①全国的な注目を集めた音楽フェスへの対応

- ・コロナ流行中の2021年8月、本施設の多目的利用地で開催された野外音楽フェスにおいて、県からの再三の要請にもかかわらず、参加者の密集、マスク着用の不徹底、酒類の提供等の様子がSNSやニュースメディアを通じて報じられ、全国的にも耳目を集める事案が発生しました。
- ・本事案を受け、県は、開催までの経緯など事実関係を確認・検証のうえ、再発防止に向けた対応方針等について検討するために、検証委員会を設置しました。2021年10月に公表された検証委員会報告書においては、今後の対応として、主催者リスクの見極めと対応の強化や、催事の関係者全員の意識の啓発等に係る提言がされました。
- ・こうした提言も踏まえ、AICECにおいては、リスクに関する意識を高め、組織的な対応方針を定めるため、危機管理マニュアルを整備し、その後の催事運営にも活用するなど、本事案は、本施設におけるリスク対策のあり方を見直す契機となりました。

②催事飲食感染防止対策支援

- ・催事主催者の負担軽減及び感染防止対策を徹底するため、本施設において開催される催事に対し、2022年度までの時限的なモデル事業として、感染防止対策を施した飲食エリアを提供し、コロナ禍での催事開催を支援しました。また、その実証結果を発信することで、主催者の感染防止対策の意識向上に努めました。
- ・2021年度には、公募により決定された音楽フェスを対象として事業を実施しました。ソーシャルディスタンスを確保した飲食席を提供するとともに、人の流れをスムーズにするよう待機列を整備したキッチンカーの運営などを行い、コロナ禍での音楽イベントにおける飲食エリアの運営に役立てました。

③音楽コンサート開催支援事業費補助金

- ・「大きな声を出す」「観客が密集する」「地域をまたぐ移動が発生しやすい」等の催事の性質上、コロナ禍において観客を入れた開催がとりわけ困難な状況にあった音楽コンサートの開催を支援するため、愛知県において、「音楽コンサート開催支援事業費補助金」を拠出しました。
- ・補助対象は、有観客かつコロナに関する各種ガイドラインに従って開催される催事とし、2021年7月から2022年2月に開催された計5件のコンサートに対して補助を行いました。

県及びAICECでは、このように、個別の催事で起こった問題については、検証委員会等の設置により適切に対応するとともに、音楽コンサート全体に対しては、業界が下火になってしまわないよう、安全な開催に向けた支援を行ってきました。催事開催に対するコロナの影響はほぼなくなり、現在は数多くのコンサートが本施設で開催されています。安定した集客が見込まれるコンサートが本施設で多く開催されることで、周辺地域のにぎわいにも寄与できることから、今後も、コロナ禍における対応を通して得た知見を基に、効果的な運営を継続することで、本施設の活用を図っていきます。

(3) 附帯事業運営業務**① 駐車場運営**

i) 要求水準

- ・駐車場業務は、敷地内の来場者用の駐車場を適切に管理することにより、来場者の安全性・利便性を確保するとともに、料金徴収を通じた収益確保を通じて、効率的な運営を行う。
- ・隣接する中部国際空港株式会社が運営する駐車場との適切な連携・調整を図る。

ii) 実施状況

- ・本施設には、敷地内に、一般駐車場3,447台（うち障害者用40台、ヘルプマーク用3台）、大型バス21台、二輪車30台の来場者用駐車場が整備されています。
- ・展示ホールで催事が開催され、多くの来場者が見込まれる際には、主催者との事前調整のうえ、車両誘導計画の策定や整理誘導員の配置を行うとともに、催事会場に事前精算機を設置し、安全かつ迅速に出庫ができるよう運用しています。このように、駐車場をホールや会議室等の施設と一体的に維持管理・運営することで、催事の来場者の利便性や安全性を確保しています。
- ・駐車料金については、愛知県国際展示場条例に基づき設定されており、下表のとおりとなっています。隣接する中部国際空港(セントレア)の駐車場と料金体系を共通化し、どちらかの施設の混雑時には相互受入を可能とするなど、両施設の利用者の利便性を高めています。
- ・また、本施設の利用者に限り駐車料金の割引を行っており、料金精算前に催事会場に設置されている割引認証機に駐車券を通すことで割引が適用可能となるほか、総合案内で身体障害者手帳等を提示することで、駐車料金を割り引く制度も導入しています。

駐車場の利用料金(2025年3月時点)

| 項目 | | 1時間あたり*3 | 24時間まで*4 |
|---------------------|---------------------------|---|----------|
| | | 利用料金(円) | |
| 普通自動車 (高さ2.5m以下) | Aichi Sky Expoの施設ご利用の場合*5 | 300 | 800 |
| | 上記以外の場合 | 300 | 1,600 |
| 大型自動車 (高さ2.5m超) | Aichi Sky Expoの施設ご利用の場合*5 | 1,000 | 1,900 |
| | 上記以外の場合 | 1,000 | 5,000 |
| 二輪自動車 | | 100 | 500 |
| 身体障害者等割引 | | 身体障害者手帳・療育(愛護)手帳・ 戦傷病者手帳・被爆者健康手帳・ 精神障害者保健福祉手帳・ 特定医療費受給者証の提示により、 合計額の半額を割引 | |

- ・駐車場の利用状況については以下のとおりです。催事開催等の状況に大きく左右されることから季節的な変動が大きいものの、利用台数は年々増加傾向にあり、2022年度以降は年間10万台を超える利用となっています。

駐車場の利用台数の推移

| 年度 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|---------|
| 2019年度 | | | | | 1,193 | 20,625 | 9,894 | 13,076 | 16,743 | 9,528 | 1,712 | 77 | 72,848 |
| 2020年度 | 61 | 161 | 112 | 962 | 2,271 | 6,045 | 2,236 | 13,115 | 9,506 | 2,662 | 4,002 | 7,690 | 48,823 |
| 2021年度 | 1,266 | 2,695 | 14,068 | 4,732 | 4,423 | 2,412 | 11,780 | 15,630 | 6,550 | 4,447 | 4,370 | 2,927 | 75,300 |
| 2022年度 | 13,134 | 11,638 | 10,632 | 20,349 | 2,507 | 9,561 | 7,920 | 13,729 | 8,693 | 2,684 | 7,984 | 1,924 | 110,755 |
| 2023年度 | 11,832 | 10,956 | 9,170 | 14,991 | 8,139 | 11,188 | 7,769 | 14,326 | 9,694 | 1,990 | 8,280 | 6,914 | 115,429 |

iii) 評価と課題

- ・駐車場運営については、来場者用駐車場の路面・設備の維持管理や、催事開催時における駐車場内の事故・トラブル(退場時に通過するゲートバーの破損など)への対応などの点において、大きな問題点はなく、これまで適切に駐車場運営がなされてきたと評価できます。
- ・本施設は、自動車専用道路である知多半島道路に直結しており、各方面からの自動車でのアクセス環境が良好であることから、自動車による来場者も多く、料金徴収にあたっては、施設利用者への割引や事前精算機の導入により、利用者の利便性の確保に努めています。
- ・一方、周辺道路での渋滞発生は大規模催事開催時の課題点のひとつであり、その原因として、主催者からは、入庫に係る動線が長いことや出庫時に精算機において車両の待ち行列が発生していること等が指摘されています。
- ・2025年度以降、ツーリズムEXPOジャパンやアジア競技大会を始めとした大型催事の開催が予定されていることから、動線の見直しや誘導の工夫など、ハード・ソフト両面からの対策を検討し、渋滞発生を未然に防ぐことが必要です。
- ・また、隣接する中部国際空港では、空港内の道路渋滞緩和を目的として、2023年12月から、年末年始やゴールデンウィークなど、駐車場の利用者が多くなる混雑期(多客期)の特別料金を設定しており、本施設でも同様の価格設定ができるよう、県において、2024年2月議会で駐車場料金に係る条例改正を行いました。
- ・こうした動きを踏まえ、中部国際空港と料金体制を合わせ、相互で連携した合理的な駐車場運営を行うために、利用状況や料金改定に係るコスト等を踏まえてAICECが混雑期料金の導入を早急に検討したうえで、適切に対応していくことが求められます。

② 飲食・売店等利用者利便施設の運営

i) 要求水準

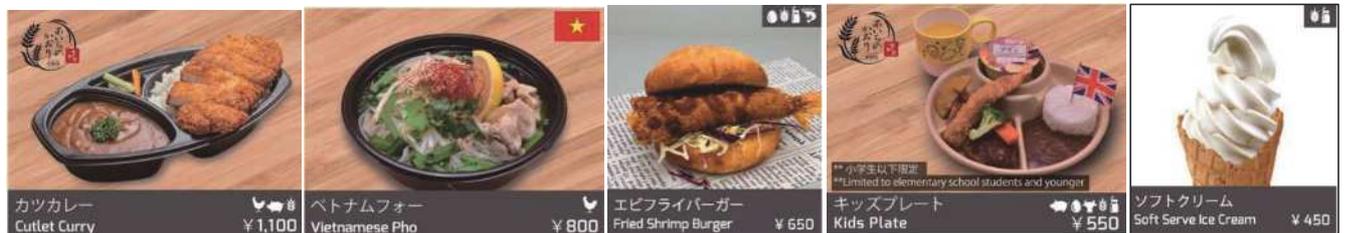
- ・本施設の利用者及び来場者の利便性の向上に資するため、施設内に飲食・売店機能、ビジネスセンター機能、コインロッカー、自動販売機コーナーを設置する。

ii) 実施状況

- ・催事開催時における利用者、来場者の利便性の向上を図るために、施設内に飲食施設(フードコート、カフェテリア)、売店、コピーや宅配便発送、クロック業務等を行うビジネスセンター、コインロッカー、自動販売機コーナー等を設置しています。

- ・一般的に、MICE施設における飲食等の収益事業の導入については、催事開催による需要の変動が大きく、安定的な経営が難しいとされているところ、本施設における飲食機能に関しては、催事開催時に限定した運営を前提として、協力企業であるシーザースキッチン株式会社が主体的に経営する方式を採用しています。
- ・専門業者の協力を以てフードコートや売店の運営を行うにあたっては、県とAICECにおいて県有財産の貸付契約を締結し、AICECが当該建物の賃借権等を得た上で、当該賃借権等を権原として当該第三者に転貸するという方法をとっています。
- ・フードコート、カフェのメニューには、積極的に地元食材を取り入れるとともに、催事に合わせた変更や、夏季には冷やし担々麺、冬季にはカレーきしめんといったような、季節に合わせたメニューの見直しなど、来場者に会場での食を楽しんでいただけるような工夫を行っています。

【飲食店における提供メニュー(一例)】



- ・また、フードコートにおいては、来場者が多く利用が集中する際に食券機購入の待機列ができていたことに対応するため、2024年度には新型の食券機を導入し、電子マネー等の決済方法へ対応できるようにした他、それまでスタッフが手作業で行っていた食券確認や食事提供の呼び出しをデジタルで行えるようにしたことで、提供までの時間を短縮させることができました。
- ・その他、売店において、フードコートやカフェのみでは不足する飲食を提供するため、弁当類や飲料等の販売を行っています。
- ・加えて、利用者からのニーズに合わせてコーヒーや軽食等の自動販売機を設置したり、利用が多い場所に追加で自動販売機を設置したりするなど、利用者の利便性向上に貢献しています。

フードコート



売店



ビジネスセンター



iii) 評価と課題

- ・飲食を始めとした各種利用者便利施設については、要求水準で求める機能を備えた設備を設置するとともに、利用状況に応じてAICECが創意工夫を行い、利用者ニーズに対応しながら、収益力強化に向けた営業努力を進めています。

- ・一方、催事主催者及び来場者の双方から、大規模催事開催時には飲食の提供スペースが足りないことや、設営時の食事の確保といった飲食機能の向上を求める声が挙がっています。
- ・飲食機能は施設利用者の満足度向上にとって重要な要素のひとつであることから、弁当手配や外部厨房棟といった既存のサービス・設備を一層利活用するなど、飲食関連機能の周知や改善に努めることが望まれます。
- ・また、飲食以外の売店、ビジネスセンター等の運営に関しても同様に、施設利用の増加に伴い、今後ますます多様化すると考えられる利用者からのニーズに対応し、施設全体の魅力向上に資することが期待されます。

【コラム⑧ 地元食材・食文化のPRについて】

本施設では、フードコートやカフェ、ケータリングサービスにおいて、愛知の地域食材や食文化を採り入れたメニューを楽しむことができます。

本施設で提供されるお米はすべて県の奨励品種米である「あいちのかおり」(愛知県産)を使用しているほか、知多半島の自然海水塩を使用したソーセージ、知多産醤油を利用した醤油ラーメンや、地域で水揚げされたシラスなど、地元の食材を活かしたメニューが提供されています。

また、国内外から人が集まる施設であることをふまえ、来場者に愛知の味を堪能してもらうため、地元の特産品である手羽先や味噌料理などの「なごやめし」もとりそろえており、AICECでは、こうした地元産食材の取扱いやフードメニューについてHPに掲載し、発信することで、来場者へのPRを図っています。



2024年10月に開催された「FOOD STYLE Chubu 2024」においては、愛知県を中心に有識者、関係団体等で構成される「愛知「発酵食文化」振興協議会」により、県の観光施策として推進している「発酵食文化」に関するブースも出展され、愛知県の食文化の魅力国内外に発信する機会を創出しました。

さらに、地元事業者との連携及び本施設の活用として、県とAICECとで構成される官民連携組織により大規模催事等の開催時に「県産品PRコーナー」を設置・運営しています。本コーナーでは、主に地元の事業者が出展者となり、県産の食材を用いた製品の試食・販売等を行い、来場者へのPRを実施しています。

このように、施設運営を通じて地元食材や食文化を発信する場を創出することで、地元経済の活性化や地域の魅力向上に貢献しています。

③総合保税地域の機能を活用した展示会支援

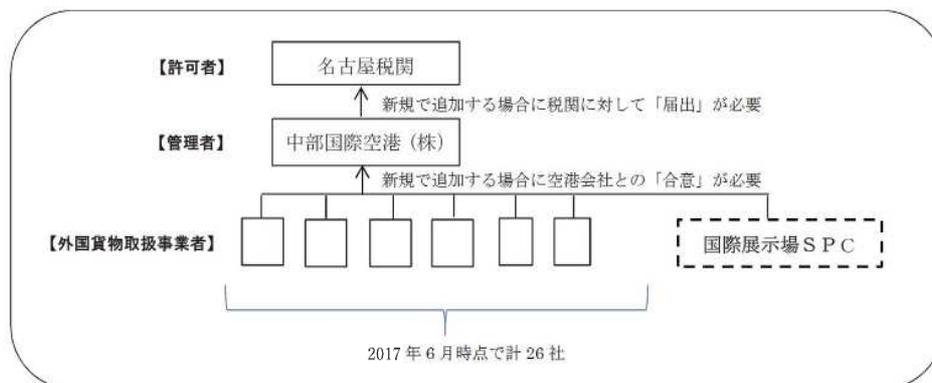
i) 要求水準

・愛知県国際展示場において開催される展示会・見本市において海外からの出展を促進するために、展示物等の外国貨物を関税などを課さないままで、簡易な手続きにより展示する総合保税地域の機能を活かした展示会支援を行う。

ii) 実施状況

- ・本施設が立地する空港島は、総合保税地域として許可を受けており、本施設は、日本で唯一の常設保税機能を持つ展示場となっています。
- ・総合保税地域の参加事業者(外国貨物取扱事業者)として業務を行うためには、社内に総合責任者や貨物責任者等を設置する必要があり、AICECにおいては、総合責任者として自社職員、貨物責任者として、AICECの協力企業であり国際物流の専門業者である(株)KSAインターナショナルからの出向職員を配置し、保税機能を活用した催事開催支援を行う体制を整えています。
- ・保税に係る業務としては、利用の申込があった際の手続きや、総合保税地域としての分担金の支払、社内における教育訓練、研修等を行っています。
- ・開業後、コロナの影響等により国際的な展示会・見本市の開催が限定されていたことも影響し、総合保税地域の機能を活用した展示会の実績はごく少数に留まっていますが、案内資料の一層の改善・充実等、利用促進に向けた取組を進めています。

中部国際空港総合保税地域について



iii) 評価と課題

- ・開業後、コロナの影響等により国際的な展示会・見本市の開催も限定されていたため、総合保税地域の機能を活用した展示会の実績は、2021年の「World Robot Summit」の1件にとどまっています。
- ・保税展示場としての具体的な利用シーンとしては、本施設で開催される展示会に海外出展者が自社製品を持ち込むケースが想定され、保税展示場として利活用されるためには、以上のような出展者が参加する国際的な展示会が本施設において開催されることが前提となります。
- ・中部国際空港に隣接した本施設において、他施設にはない保税展示場としての特色を最大限に生かすため、保税機能についてさらなる周知を行ったうえで、すでに海外で開催されている展示会を呼び込む、既存の展示会において海外からの出展を促進するなど、本機能と親和性の高い催事に対する誘致・営業を推進することが求められます。

(4)官民連携による需要創造推進業務**①運営体制の構築**

i) 要求水準

・本施設を拠点として、見本市・展示会をはじめとした愛知県発の新たな催事の企画・開催や誘致等を推進していくための官民連携による需要創造を図る組織(以下、「官民連携組織」という。)の組成を図る。

ii) 実施状況

- ・本県の産業集積・特性を活かし、見本市・展示会の開催を通じた新たな交流による新産業の創出や既存産業の充実など、当地域の産業振興・経済発展に資するためには、国内外からの出展者や来場者等を集める催事の企画や実施等の取組を、官民が一体となって戦略的に取り組むことが重要です。
- ・そのために、本施設を拠点として、愛知県発の新たな催事の企画・開催や誘致等を推進していくための官民連携による需要創造を図る組織として、愛知県とAICECで構成する官民連携組織「Aichi Sky Expo活性化推進機構」(以下、「機構」という。)を設置しています。
- ・機構では、毎月1回県とAICECにより「PPP連絡会議」を開催し、効果的な事業実施に係る検討や意見交換を行ったうえで、地域プロモーションや催事開催支援等の事業を実施してきました。
- ・また、地域を挙げて本施設の需要創造を図るため、地域の経済団体、大学、交通関係事業者や行政機関等により「Aichi Sky Expo需要創造会議」を立ち上げ、パネルディスカッションや施設見学、本施設を核とした地域活性化に係る意見交換会を行うなど、地域を巻き込んだ活動を展開しています。

iii) 評価と課題

- ・これまで、官民連携組織として機構を設置し、Aichi Sky Expo需要創造会議を開催するなど、地域におけるステークホルダーとの連携を図りながら、主催者支援等の取組を推進してきました。機構での連絡会議や、地元事業者との需要創造会議の開催により、催事への支援策を検討・実施することで、「②地域プロモーション事業」以下に記載する事業を行い、催事誘致や定着につなげることができています。
- ・今後も、機構を中心として地域における関係者との連携を強化しながら、主催者支援の取組を始め、広域的・国際的なプロモーションの強化や、国際的な展示会・見本市の企画・開催等の推進など、本施設における展示会・見本市に係る需要創造のさらなる推進と組織体制の強化を図ることが望まれます。

②地域プロモーション事業

i) 要求水準

・本施設及び愛知県内で開催する見本市・展示会等の開催情報の発信、及び本施設を活用した催事の企画・誘致を促進するため、地域プロモーション活動を実施する。

ii) 実施状況

- ・本施設における催事の開催情報等を発信し、催事の企画・誘致を促進するため、セントレアや地元自治体、商工団体、名古屋鉄道、愛知道路コンセッション株式会社等のステークホルダーとも連携して、来場者向けの鉄道企画切符の発売や高速道路PAでの催事広報などの取組を行っています。
- ・また、広域的・国際的なマーケティング・プロモーション活動として、催事開催時に県産品PRコーナーを設置・運営し、地場産業の活性化及び地域の産業界の展示場への参画意識の醸成を図っているほか、

MICE業界紙への記事掲載などを通じて、本施設及び機構のPRを図っています。

年度ごとの主な取組

| 年度 | 主な取組内容 |
|--------|--|
| 2019年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・オープニング催事「AICHI IMPACT!2019」※の実行委員会への参画。 ※「AICHI IMPACT!2019」…国内外で活躍するトップ選手や芸能人プレイヤー等を招いたeスポーツの国際大会とライブエンタテインメントの祭典。結果として、約3万5千人の来場者、約17万人の動画配信視聴、公式Twitterへのアクセス件数約640万件を記録。 |
| 2020年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・開業1周年の節目として、MICEの業界紙である「MICE Japan」での特集記事や、「中日新聞」での広告を掲載。 ・「安心・安全なMICE」を国内外にアピールする目的で開催された、オンラインとリアルハイブリット型パネルディスカッション催事「MICEフューチャー・アクション『新たな日本のMICEショーケース』」のエリアシンポジウムを本施設において開催。 ・eスポーツイベント「AICHI IMPACT! 2021」の実行委員会への参画。 ・「県産品PRコーナー」の運営を支援し、来場者への地域PRを実施。 <p style="text-align: right;">専門誌における掲載記事イメージ</p> <p style="text-align: center;">県産品 PR コーナーの様子</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> |
| 2021年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・「施設園芸・植物工場展」始め3件の催事開催時において県産品PRコーナーを運営。 ・MICE業界紙である「MICE Japan」へ特集記事を掲載。 ・主催者向けの支援情報を掲載するWEBサイト「ウェルカムサポート」の充実等。 |
| 2022年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・「名古屋モーターサイクルショー」始め3件の催事開催時に県産品PRコーナーを運営。 ・MICE業界紙である「MICE Japan」や「見本市展示会通信」へ特集記事を掲載。 |
| 2023年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・「Smart City Park from AXIA EXPO」始め2件の催事開催時に県産品PRコーナーを運営。 ・MICE業界紙「MICE PLANNERS GUIDE」や「Exhibition World」へ特集記事を掲載。 |
| 2024年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・4月に開催された第124回日本外科学会定期学術集会(外科学会)はじめ4件の催事開催時に県産品PRコーナーを運営。 【外科学会開催時県産品PRコーナーについて】 ・地元事業者の協力により、過去最大規模となる678㎡のスペースに、約30者の出展者が集結。 <出展者一例> 県内各地の観光協会、名鉄グループ、JR東海、地場産品を扱う食品業者、有松絞や七宝焼などの伝統工芸品の販売店 等 ・県産品PRコーナーの設置により、学会参加者からも満足のお声をいただき、催事全体の満足度向上に貢献した。 |

iii) 評価と課題

- ・専門誌への記事掲載や県産品PRコーナーの運営など、機構による地域プロモーション事業を通じて、本施設の知名度やブランドは徐々に拡大していると考えられます。
- ・こうしたプロモーション活動はすぐに成果が現れるものではないため、毎年を取組を継続していくことが重要であり、今後も引き続き、セントレアや地元の関係団体、交通事業者といったステークホルダーとの連携を一層強化し、広域的・国際的なマーケティング・プロモーション活動を推進していく必要があります。
- ・特に、インバウンドの増加やセントレアにおける就航状況の復活等により、近隣の宿泊施設も充実してきています。大規模催事の開催時には、主催者や来場者の宿泊場所の確保も利便性向上のための要素となることから、宿泊事業者と連携した取組等の一層の推進が期待されます。

③DMC 事業

i) 要求水準

- ・本施設を利用して、見本市・展示会等の催事を企画・開催しようとする事業者等に対して、官民連携組織が適切な支援を行うことによって、愛知県初の見本市・展示会の創造や発展を促進する。

ii) 実施状況

- ・機構では、本施設において催事を企画・開催しようとする主催者等に対して、補助金の拠出や広告スペースの整備・提供、周辺施設に関する情報発信などの支援を行うことによって、多様な催事の誘致、開催を促進しています。

主な取組

○Aichi Sky Expo利用促進補助金

- ・国際的、全国的な催事の県内への誘致を通じ、展示会産業の活性化を図ることを目的として、対象となる催事の催事主催者に対し、会場利用料金や来場者向けシャトルバスの運行費用への補助を行っています。

補助制度概要(2025年3月時点)

| | |
|------|--|
| 対象催事 | 展示ホールを利用する催事であって、以下のいずれかに該当するもの ・県が主催者(県単独主催を除く)、共催者又は実行委員会の構成員等である催事 ・県が後援する催事(BtoB展示会、国際的な催事、大規模催事等) |
| 対象経費 | ①会場利用料金(ホール、会議室等) ②シャトルバス運行費 (ホール等を25,000㎡以上利用する催事に限る) |
| 補助率 | ①原則1/2(上限額あり) ②1/2(上限額あり) |

- ・補助制度を開始した2019年度から2025年3月までに、計22件(予定)の催事に対して補助を行っており、本補助制度の活用により、自動車関連の展示会やBtoCイベント、国際会議等を本施設に呼び込み、定着させることに寄与しています。

- ・また、補助対象となる催事に対しては、AICECと愛知県が協力して誘致活動を行ったうえで、催事開催にあたっては、県のネットワークを活かした出展者・来場者募集への協力を行うなど、官民が連携し

た手厚い支援体制は、他の施設にはない強みとして主催者からも高い評価をいただいています。

○来場者向けノベルティの作成

・とこなめ観光協会と連携して、常滑が舞台の映画「泣きたい私は猫をかぶる」のPR資材(聖地マップ、映像等)やノベルティ(カップスリーブ)を作成し、催事来場者へのおもてなし及び地域PRを行いました。

○広告掲載スペースの整備・提供

・会場に向かうまでの道のりや、会場内のホール以外の箇所に経路案内や催事の広告を掲出したいという主催者の要望に応え、他会場の事例も参考にして、施設内に広告掲載スペースを整備し、有償にて提供しています。

・これらの広告掲出可能箇所についてまとめた「メディアガイド」を作成し、主催者に案内することで、様々な催事において広告掲載スペースが利用されており、催事開催に係る案内を充実させるとともに、会場内のにぎわいも生み出しています。

メディアガイドを利用した広告



○主催者向けWEBサイトの整備

・本施設のHP内に、主催者向けWEBサイト「Welcome Support」を整備しています。
 ・当サイトでは、本施設をご利用になる催事主催者や出展者向けに、周辺の飲食施設や観光情報、主催者向けの特典がある宿泊施設等を紹介しており、地域一丸となって催事の開催支援を行う体制を整えています。

○その他の取組

・近隣ホテルや自治体の持つスペースにおける催事のポスター掲示、空港レストランで特典を受けることができるクーポンの配布、知多半島エリアのフリーペーパーや広報とこなめ(月刊)への催事情報掲出といった主催者支援を行いました。

iii) 評価と課題

- ・機構による催事開催支援の活動として、Aichi Sky Expo利用促進補助金の交付を始めとする各種支援策を企画・実施し、国際会議や新たな産業展示会等、様々な催事の誘致につなげることができています。
- ・今後も、対象催事の拡大など更なる補助制度の充実や、主催者のニーズを踏まえた効果的な開催支援を行い、開催実績のある催事の定着や、さらなる新規催事の誘致・定着を図っていくことが求められます。

【コラム⑨ 常滑市との連携について】

常滑市に立地する本施設は、催事の開催にあたり、地域と連携した受入体制を整備し、地域の経済活性化に貢献しています。以下に、後背地である常滑市の魅力と、常滑市による催事開催支援を紹介します。

①常滑市の魅力

- ・知多半島は、海に囲まれた豊かな自然環境と歴史的な文化遺産に恵まれた地域です。
- ・特に、常滑市は日本六古窯の一つである常滑焼の産地として知られ、常滑駅近くのやきもの散歩道は、伝統的な窯屋やレンガ造りの煙突、焼き物を使った道や擁壁など、独特な景観を楽しむことができます。
- ・また、農業や畜産業も盛んであり、国家戦略特区制度の活用により全国に先駆けて開業された農家レストランにおける地元食材の提供など、食文化にも多く魅力があります。

②常滑市・とこなめ観光協会による催事開催支援

- ・常滑市及びとこなめ観光協会では、本施設で開催される催事参加者の移動に係る利便性向上や、アフターMICEの充実による満足度向上を目的として、以下のような取組を行っています。

○MICE関連の専用WEBサイトの運営

- ・本施設でのMICE開催に焦点を当てたWEBサイト「常滑MICE」を運営し、常滑市の魅力や本施設へのアクセス、宿泊・情報、おすすめのお土産等、MICEで常滑を訪れる人に向けた情報を数多く紹介しています。



○「TOKONAME魅力体験シャトルバス」の運行

- ・多くの来場者が予想される催事の開催時に、展示場と常滑市内を結ぶ無料シャトルバス「TOKONAME魅力体験シャトルバス」を運行し、常滑の周遊促進を図っています。
- ・このシャトルバスは、昼間には催事参加後や隙間時間に観光地を訪れることができるルート、夜間には宿泊者や夕食を食べて帰る来場者向けに空港島と常滑駅をつなぐルートで、午後10時台まで運行しています。

○飲み歩き食べ歩きクーポン及びマップの配布

- ・本施設の利用者及び対象ホテル・ゲストホテルの宿泊者を対象に、常滑駅及びりんくう常滑駅周辺、空港島の対象飲食店でサービスが受けられるクーポン券やプレミアム商品券を配布・販売しました。
- ・あわせて、対象店を掲載した「WELCOME TO TOKONAME飲み歩き食べ歩きMAP」を本施設の総合案内や対象宿泊施設のフロントなどで配布し、利用方法の案内及び利用の促進を図りました。

○MICEカタログ等の作成

- ・催事主催者向けにパーティー会場やユニークメニュー、工場見学先等を案内する「とこなめMICEカタログ」及び、催事参加者に陶芸体験等のプログラムや食事先等を紹介する「とこなめEXPERIENCE」を作成し、WEBサイトで公開しています。

こうした地域を挙げた取組によりディスティネーションの知名度や魅力が向上することで、本施設への催事誘致のきっかけとなります。また、催事参加者が本施設以外の場所を周遊することにより、地域の経済活性化にもつながっています。今後も、観光、文化、食など特色ある地元団体との連携・協力を積極的に行い、地域全体で催事の受入体制を整えていくことで、本事業のコンセプト「三方よし」の実現を目指していきます。

④展示会等企画・開催事業

i) 要求水準

- ・県や関連団体等との連携・協力のもと、本県の産業集積・特性を活かした愛知県として戦略的に展開すべき見本市・展示会等の催事の企画・開催を行う。
- ・見本市・展示会等の催事のテーマや開催概要、開催回数等については、県の行政計画や施政方針、事業者からの提案内容等を踏まえて、県と運営権者、その他関連団体等との協議のうえで決定する。

ii) 実施状況

- ・本事業の実施にあたっては、見本市・展示会の開催を通じた新たな交流による新産業の創出や既存産業の充実など、当地域の産業振興・経済発展に資することが求められています。そのためには、見本市・展示会をはじめとした国内外からの参加者を集める催事の企画や開始を、官民が一体となって戦略的に取り組むことが不可欠であり、この要求水準の実現に向けて、これまで、機構として各種催事の開催に貢献してきました。
- ・本県の産業集積・特性を活かした催事の企画・開催に係る取組として、本施設のオープニングイベントでもあるeスポーツイベント「AICHI IMPACT!」の開催や、2024年3月に開催された「SMART MANUFACTURING SUMMIT BY GLOBAL INDUSTRIE(SMS)」に対して、催事が円滑に開催されるよう、機構として支援・協力しています。
- ・「SMS」は、AICECの代表企業であるフランスのGLイベントと愛知県との間で締結されたMOUに基づき開催された、愛知県の特性に合致した「ものづくり」をテーマとする産業展示会です。開催にあたっては、主催であるGLイベントと、県・経済団体等が密接に連携し、当日は、日欧のインダストリー5.0に向けた産業協力を主軸に様々なコンテンツや講演が展開され、参加企業数は374社、延べ48カ国から10,072名の参加者を記録しました。

AICHI IMPACT !



SMS



iii) 評価と課題

- ・展示会等企画・開催事業として、これまで、オープニングイベントである「AICHI IMPACT !」やAICECの代表企業であるGLイベント主催の「SMS」など、本県の産業集積・特性を活かした、国内外からの参加者が見込める催事に対して、実行委員会等に参画し、催事の開催、支援等の実績を重ねています。
- ・要求水準においては、機構とAICECの共催による催事の企画・立ち上げ・開催等も想定されていることから、今後は、今まで以上に関係者との積極的な連携を図りつつ、安定して開催が可能な新たな催事の立ち上げについてより主体的に検討・実行することが課題となっています。

(5)任意事業

i) 要求水準

- ・SPC(特別目的会社)の構成企業、協力企業、又はこれらが出資する会社(運営権者を含む。)は、自らの提案に基づく事業(任意事業)を、自らの責任と費用で、事業区域の内外を問わず、実施する独立採算事業として実施できるものとする。
- ・任意事業の実施にあたっては、デジタルサイネージや最先端の音響・照明技術、情報通信技術を使った催事開催、設備導入など、最新鋭の技術を積極的に活用した事業の企画・実施を期待する。

ii) 実施状況

- ・施設利用者のニーズに合わせたきめ細やかな任意事業を展開するため、随時、AICECからの事業提案により、AICECと県との間で、事業の実施手法や本体事業への影響等について記載された「任意事業基本協定」を締結し、各種事業を実施しています。
- ・これまで、主催者向けの清掃・廃棄物処理サービスやキッチンカーサービスの提供、Wi-Fiサービスの提供など、主催者や来場者の利便性向上につながるサービスの拡充を図ってきており、売上も向上させてきています。
- ・2021年度には、コロナ禍において、オンラインとオフラインを併用し、新たな海外展開や販路開拓のきっかけを創出することを目的に、初めての自主開催催事として、食材、衣服、家具といった衣食住にまつわる商品の展示会「JAPAN×FRANCE LIFESTYLE EXPO 2021-Hybrid Edition-」を開催しました。
- ・また、開業以来、任意事業の一環として、屋上に設置されたソーラーパネルで発電した電力の余剰分による売電事業も実施しており、着実に収益をあげています。

年度ごとの主な取組

| 年度 | 主な取組内容 |
|--------|--|
| 2019年度 | ・施設利用者の基本的なニーズへの対応として、清掃・廃棄物処理サービス体制の提供やキッチンカーサービスの提供等を実施。 |
| 2020年度 | ・コロナの流行により各種試験会場としての利用が増加したことを受け、試験会場で使用する備品の貸出しを開始。 |
| 2021年度 | <p>・4月に、自主開催事業として、衣食住にまつわる商品の展示会「JAPAN×FRANCE LIFESTYLE EXPO 2021-Hybrid Edition-」を開催。</p> <p>「JAPAN×FRANCE LIFESTYLE EXPO 2021-Hybrid Edition-」開催の様子</p>  |

| | |
|--------------------|--|
| | <p>・6月に開催された、国内最大の食品機械展示会「FOOMA JAPAN 2021」に合わせて、知多半島食材を中心とした地産地消のフレンチを来場者に提供する臨時レストラン「C'est Bon! CHITA」を企画・開催。</p> <p style="text-align: center;">「C'est Bon! CHITA」開催の様子</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>・コロナ禍におけるハイブリッド形式の催事開催を支援するため、オンラインプラットフォーム提供会社と提携して、希望する主催者に対して、オンライン開催システムを提供できる体制を整備。</p> |
| <p>2022 年度</p> | <p>・地元常滑市における本施設の認知度向上や地域に根付いた催事会場としての定着を目的に、7月から10月まで開催された「国際芸術祭あいち2022」の開催期間中、常滑市内のサテライト会場(やきもの散歩道内)に休憩スポットを設置し、知多半島の食材を中心とした飲食を提供。</p> <p style="text-align: center;">休憩スポットの様子</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> |
| <p>2023 年度</p> | <p>・来場者からのニーズが多かったスマートフォンの貸出用充電器を設置。 ・貸出実績が多いパーティションや台車など、貸出備品追加の検討を実施。</p> |

iii) 評価と課題

- ・AICECでは、開業以来、自主開催事業の実施や、清掃、警備体制及びキッチンカーの提供、ネットワークの整備など、多様な任意事業を展開し、収益力の向上と顧客向けの支援サービスの充実が図られていると評価できます。
- ・今後も、引き続き施設を運営する中で、主催者や来場者のニーズを捉えるとともに、要求水準において示されている最新鋭の技術を活用した事業の提案など、さらなるサービスの充実や収益力の向上が期待されます。

